



339
315



始



339
318

福島縣名勝誌

第一篇



福島市
信達
安達

339-315

風景佳絶

福島市杉妻町

和洋割烹

松葉館本店

貴紳宴会席

電話二四十四番
電話三百四十四番

同市榮町

旅館

福島ホテル

電話十三番

福島市榮町

バカアエー

福島ホテル洋食部

貴紳集宴会場ニ適シ玉突場ノ設備アリ

電話五百五十四番

新編

圖書集成

卷之三十三

卷之三十三

卷之三十三

卷之三十三

卷之三十三

卷之三十三

圖書集成

卷之三十三

營業品目

度	諸	衛	賣	工	醫	處方調劑
量	器	生	藥	業	療	
衡	械	材	化	藥	藥	
器	類	料	粧	品	品	

福島市中町五十番地

龜田屋號

藥劑師 大和田佐助

藥劑師 大和田保

合 阿部平三郎

福島市米屋町

電話 長六五八番
三〇五番
自宅用 一五八番
電略 イリ〇又ハア

福島蠶糸米穀取引所仲買



仲買店

電話長二一四番
電略 [ヤ]



仲買店

福島市米屋町

渡邊友吉
電話 長四二九番五十六番
本宅長 三百十四番
電略 クツワ或ワ

福島市米屋町



加藤常吉

電話 長五六一
五六四番
自宅用 二四七番
電略 [〇ト]

御 友 仙 半

ハ シ カ ナ フ

友仙半 各種

信夫文摺

福島市停車場警察署向

製造元 吉田商店

〔電話二百八十八番〕〔電略ヨシタ〕

振替口座東京 貳五七九番

鶴久旅館

岩代福島市大町五十四番地

中畑久助

電話四十六番

和漢洋書籍各種雜誌、文房具、油

全部取揃へ置キ候ニ付御用命願上候 凡テ品切レモノハ直チニ取寄
セ御間ニ合セ可仕候間多少ニ不拘御用命被下度願上候 敬白

福島市大町三十九番地

上野屋書店

電話四百二十八番

本社 東京市日本橋區南茅場町四十四番地



有隣生命保險株式會社

東北支店

東北支店

福島市大町五十五番地
電話 四九九番

岩代福島市米屋町

全龍釋升次

電話 二五二番
三六六番
電略 夕キ

各種自轉車

福島市五月町二十一番地

同部分品類

山口自轉車店

並ニ附屬品販賣

電話ヤ井

修繕所

噴霧器兼用經便唧筒販賣

福島名産

信夫文字摺

ハンカチーフ半るり
帶上下福紗

外各種

福島市榮町拾壹地
停車場通り中程

開祖山崎良助商店

電話七五八番

確實勉強

和漢洋新古書籍

各學校教科書
參考書

圖書館備用珍書籍

福島市大町

古今堂書店

若松市七日町

同支店

殺菌牛乳

福島市曾根田

愛生舎

迅速配達

電話百五十八番

東洋
業株
會社



官海御用

福島市大町角

一司堂印舖

電話四百三十三番
振替東京二二三三八番



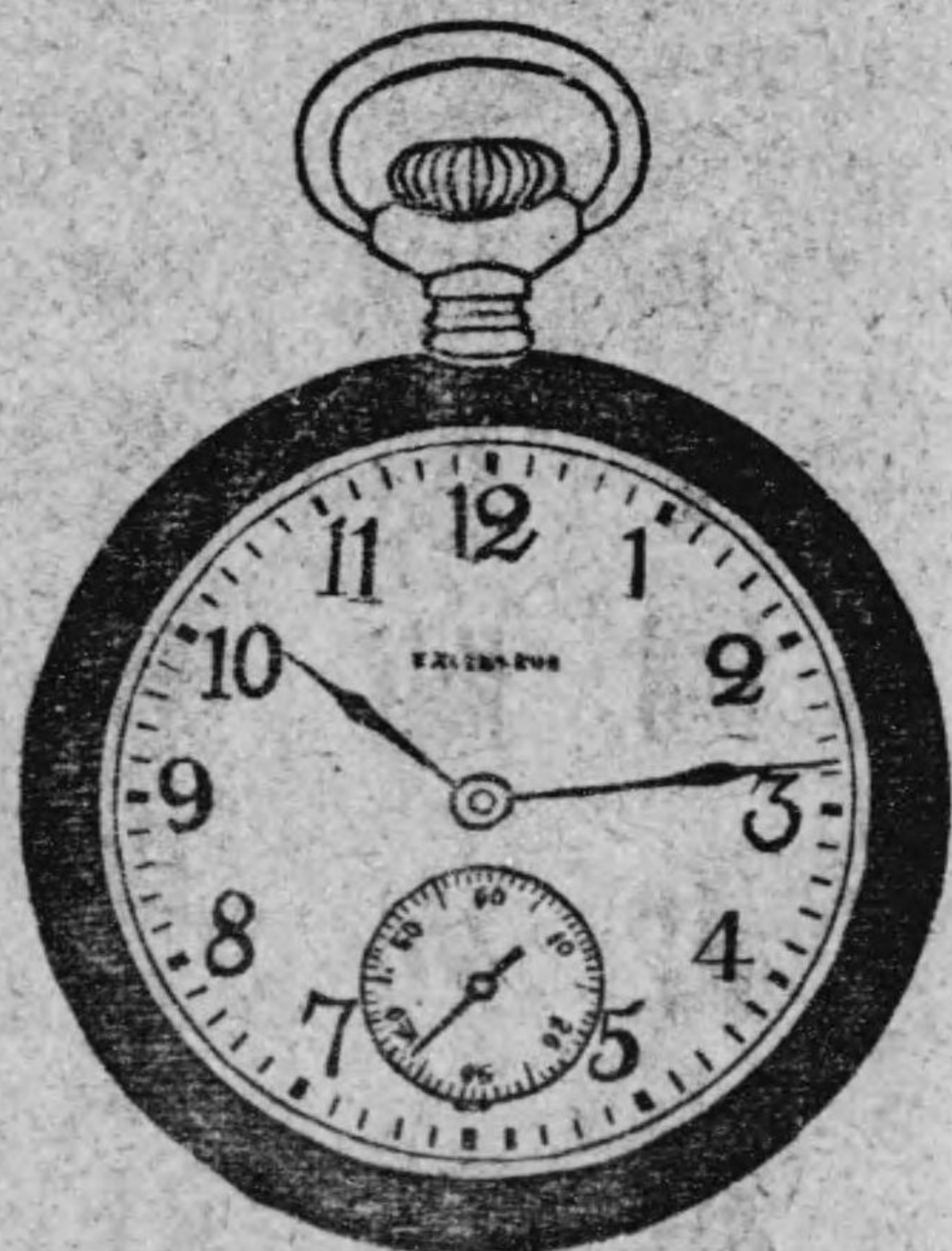
天朱

指輪類

時計各種

時計附屬品

眼鏡類



福島市仲町

時計舖 立花龜太郎

福島市本町十番地

諸廣告 益社

實業雜誌 新東北社



私立物産商品 廣告介紹 陳列所

私立圖書館

主事 五十嵐權次郎 電話四一二番

他店ニ一步モ譲ラズ

フ ラ ン ネ ル

友 仙 モ ス リ ン

普 通 ヨ リ ニ 割

安 ニ 販 賣 可 仕 候

福島市本町十八番地

吳服商 中田兵次郎

電略ナカタ又ハナ

信 夫 文 字 摺 福 島 市 本 町

半 カ チ 布

エ ハ ガ キ

額 面 畫 額

三好商店

電話六一三番

福島市本町四十八番地



有價
證券

賣買株式會社

電話二二七番

電信略語 ㄩ

弊社儀各位ノ御愛顧ニ依リ貯金會及證券賣買トモ
以御蔭益々盛大ニ相成候段深ク奉謝候將來益々精
勵確實ニ御取扱可仕候間尙一層御引立被成下度伏
テ奉懇願候敬白

和洋古着仕立物類

毛布肩掛

破格ノ見切

マ
東
コ
ー
ト
各
種

特賣品種々

メ
リ
ヤ
ス

取揃有之候

福島市北町十七番地

山 上 商 店

加 賀 屋 號

御不用衣類和洋服共確實買入可申候御報次第參上

質 舖 部 質物御取扱從前ノ通り御丁寧ニ取扱可申候

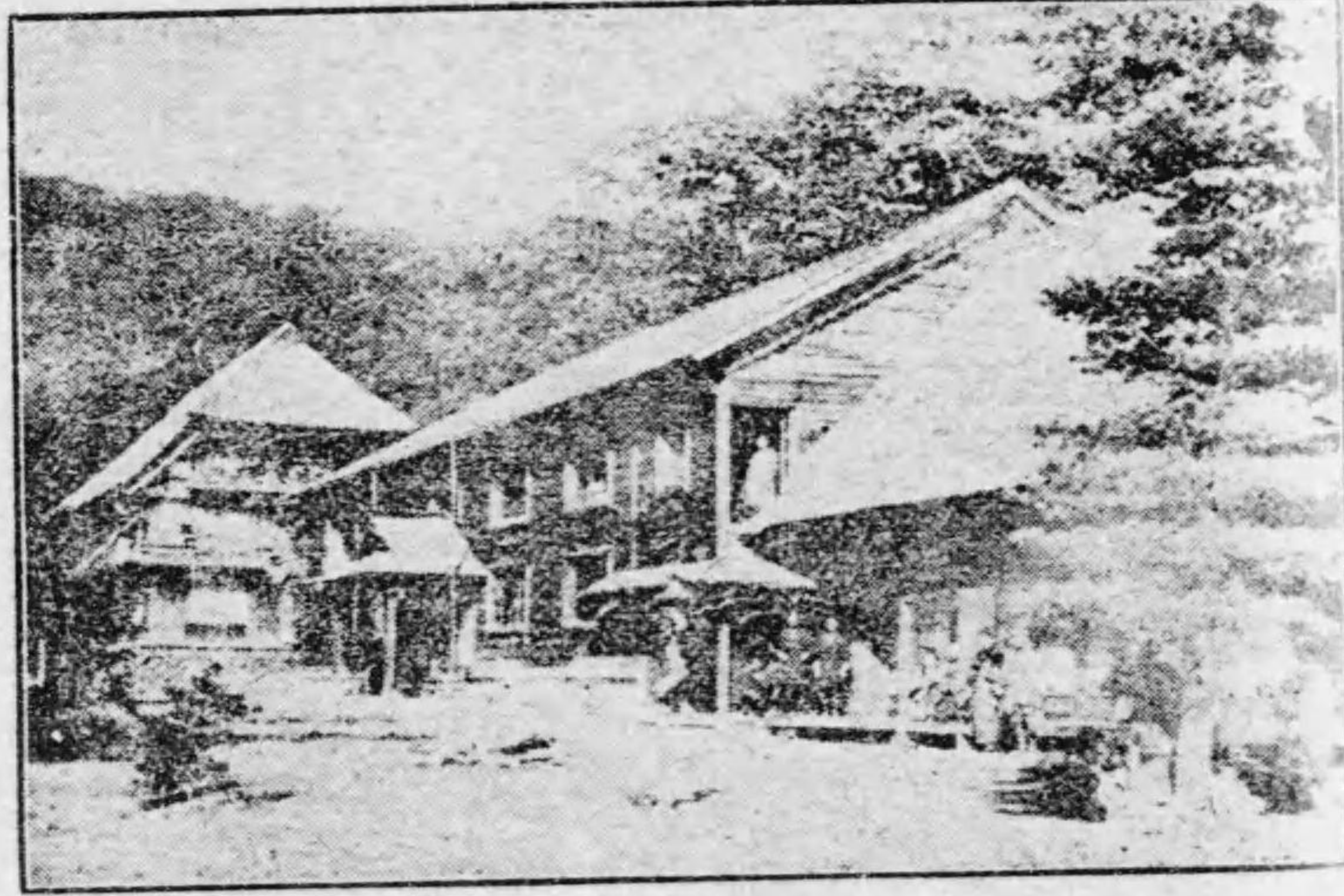
專門〔皮膚科〕〔梅毒科〕〔泌尿生殖器科〕診療

◎診療 午前 午後 夜間 ◎

木田 皮膚科療院

福島市置賜町

電話四六〇〔北〕〔福島ホテル〕通



ぬる湯温泉案内

當温泉は吾妻山の山腹にあり吾妻
登山には尤も近く頗る便利僅か一
里半
當温泉は奥羽線庭坂驛より西三里
福島驛より西五里の所にあり
當温泉は避暑地としては尤も適地
當温泉は名に負ふぬるゆなれど一
浴して其効顯に驚かざる者なし
當温泉は眼病梅毒火傷創傷病傷子
宮病皮膚病には驚べき特效ある靈
泉なり
右の諸病に病める方は一日も早く御
試浴賜はり度し

岩代信夫郡水保村

温微湯温泉

一二階堂旅館

課營業目

銅鐵板硝子 土工具 礦山用具及農具、
機械 鍛冶用工具一式、馬蹄釘並蹄鐵用器
具、建築用材料

Honda Shoten

店分原保

目丁七町原保郡達伊縣島福

(五 三) 話 電

(三五) 號略信電

店商田本

屋口川

會社名

島電

市話電

中長略信電

地番五十七町

(七〇二)

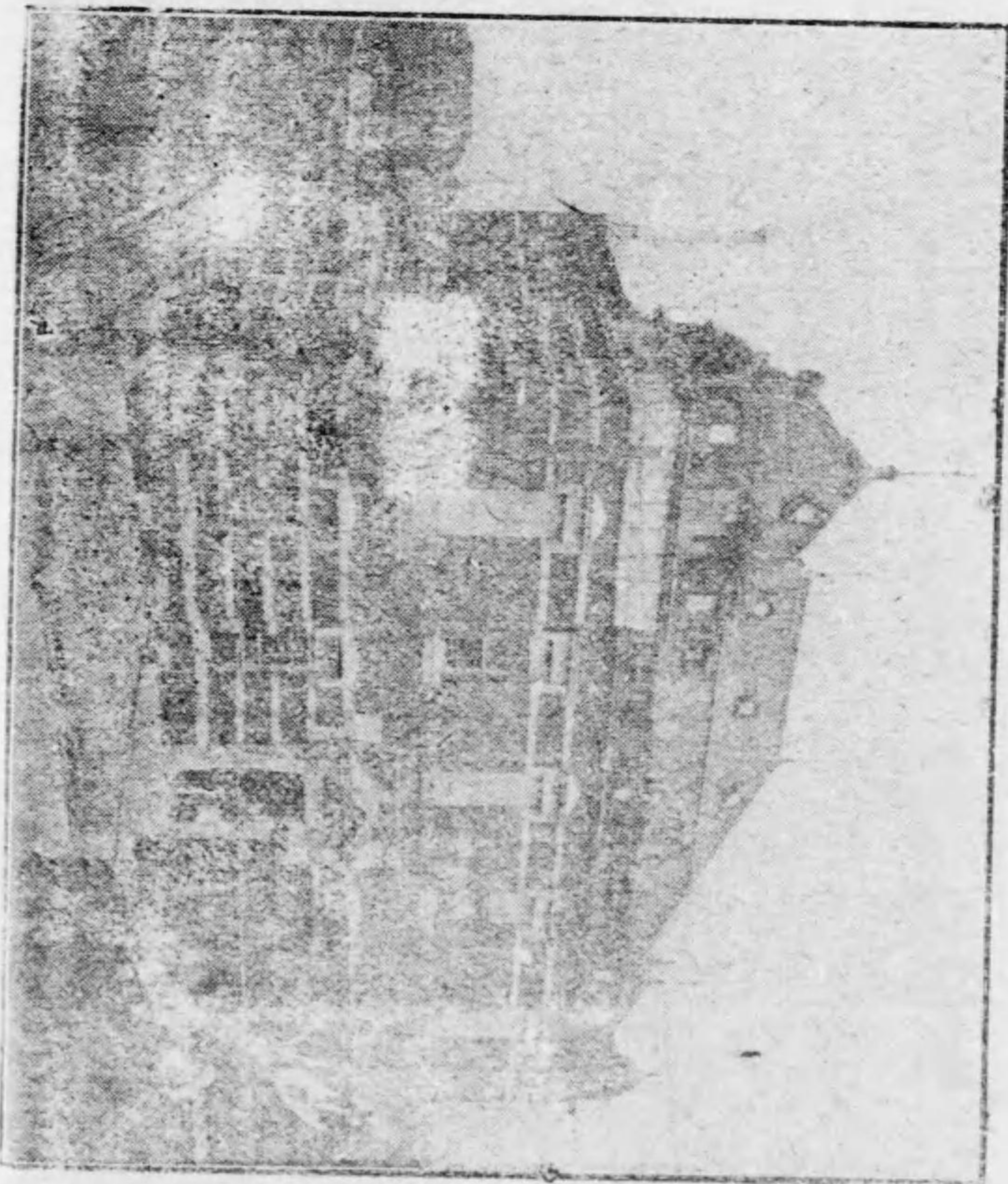
(三〇) 號略信電



佐藤長太郎

卸罐乾物 雜物
小賣類

福島縣農工銀行
 福島市置賜町



諸印彫刻工製造

司方堂印舖

福島市本町警察署向角

●國民新聞の特色

東京の新聞中最も信用あり、最も多く賣れ政治、經濟及び一般的社會記事は敏速、正確を以て定評あり、徳富蔭峰子の旬爛雄辯なる筆本邦史學界の泰斗山路愛山子の雄大壯重なる筆は俱に益々陸離たる光彩を放す其他小説園藝等實に天下獨歩の觀あり且つ全國各所に支局を置き讀者の經濟と便益を計り特に地方版を發行し一種の新聞にて最も廉價を以て中央と地方の事情を一目瞭然たるを得べし

本社

東京市京橋區日吉町

支局

福島市新町八十九番地〔電話園五二七番〕

大賣捌博

向堂

電話二二二番

高等理髮

同市榮町支店

同市置賜町支店

同市役場脇支店

店髮理藤安『床留』

側署察警町本市島福店本

番三〇七話電

一 面
新 日

高木菓子舖

松月堂支店

福 島

電話百四番

本 町

本 品
位 賞

貨物保管業
生繭乾燥業



福島倉庫合資會社

福島市西町二番地
電話三三四番

玉屋菓舗

福島市大町

電話五二



一試み賜へ

玉屋の羊羹

唯一の美味



運送

倉庫

業業

福島市榮町

福島誠壹株式會社

電話九番七二二番
振替口座一〇〇〇二番

輸 出 美 術 品

麻バッテンナギ縫

大取扱笠原商店出張所

陣場町十二

木 村 藤 吉

電話二三三八

入浴の好時期の**五色温泉**

○子供のなき御婦人は一度御來浴あれ
○寶玉の子孫の生れること請合なり

山形縣板谷停車場より三十丁

洋服

裁縫ハ最新流行ニ做ヒ

誠實ニ調製仕候

齋藤洋服店

福島市大町
電話長一七四

精撰
名代の蕎麥

福島市本町
喜多屋本店

電話二四六

福島市大町
喜多榮支店

電話四一一

福島市本町



角長商店

電話 二二二一 番
振替東京 二二〇四七番

營業案內

- 革紙煙草 入 ○福島名產種紙煙草 入製造元祖
- 革紙御袋物 ○斬新金指環 ○御煙草入附屬品
- 福島名產雨合羽油紙製造元祖 ○實用防雨具 水布

御膳生蕎麥

伊勢銀支店

福島市北町
電話五五一

諸官衙御用



鐵扇洋行 店

福島市大町縣廳前通
電話三三三六

欽米最流行 服改縫、毛織物販賣

- 一 和漢洋書籍
- 一 各學校教科書
- 一 文房具各種
- 一 諸流謠曲本
- 一 新刊諸雜誌

福島市大町縣廳通り

高須書店

振替口座東京二〇八九九番
電話四十九番電略(タカス)

村田銃 廿八番上等新式村田銃

四圓七十五
錢賣切申候
定價拾圓
持價六圓八十錢
二十番番
五十錢増
詳細ハ御照會次第
其他獵銃ピストル銃
空氣銃煙火定價
雜形郵税
二錢ヲ要ス

銃砲火藥煙火

免許商

長尾幸七

福島市本町
電話二四九



株式會社

福島市

共同生絲荷造所

電話長一一番

福島新聞

福島市杉妻町

電話一四四番

候申扱取ニ寧丁シト旨ヲ實確

福島市本町五十三番地
福島靈糸米穀取引所仲買



電話長
二六七番
五三六番
六五一番
電話略(カク)又ハ(カ)

仙臺米穀取引所仲買
仙臺市小路八十八番



電話長
一九一番
〇〇六番
〇一七番
電話略(カク)又ハ(カ)

福島市蠶種米穀取引所仲買人



大澤商店

店主 大澤龜太郎

電話略號 (才)

店用機

二九番
二〇番
一六番
一三番
二六番
三六番
四四番
五五番
四五番

電話自宅用 三〇一番

振替口座 二七八二番



福島市米屋町

佐久間長吉

電話
店用 長六四
宅用 五五五
電路 ○四六
ホ 二四四
シ 番番番



福島市米屋町

仲買店

佐久間利三郎
電話 間利三
電路 略 夕 一
長 六 一
七 〇 五
番 番 〇



美 術 看 板 請 負
ベ ン キ 塗
自 轉 車 エ ナ メ ル 塗

日 本 堂

福 島 市 榮 町 九 番 地



福 島 縣 福 島 市

東 洋 貯 金 株 式 會 社

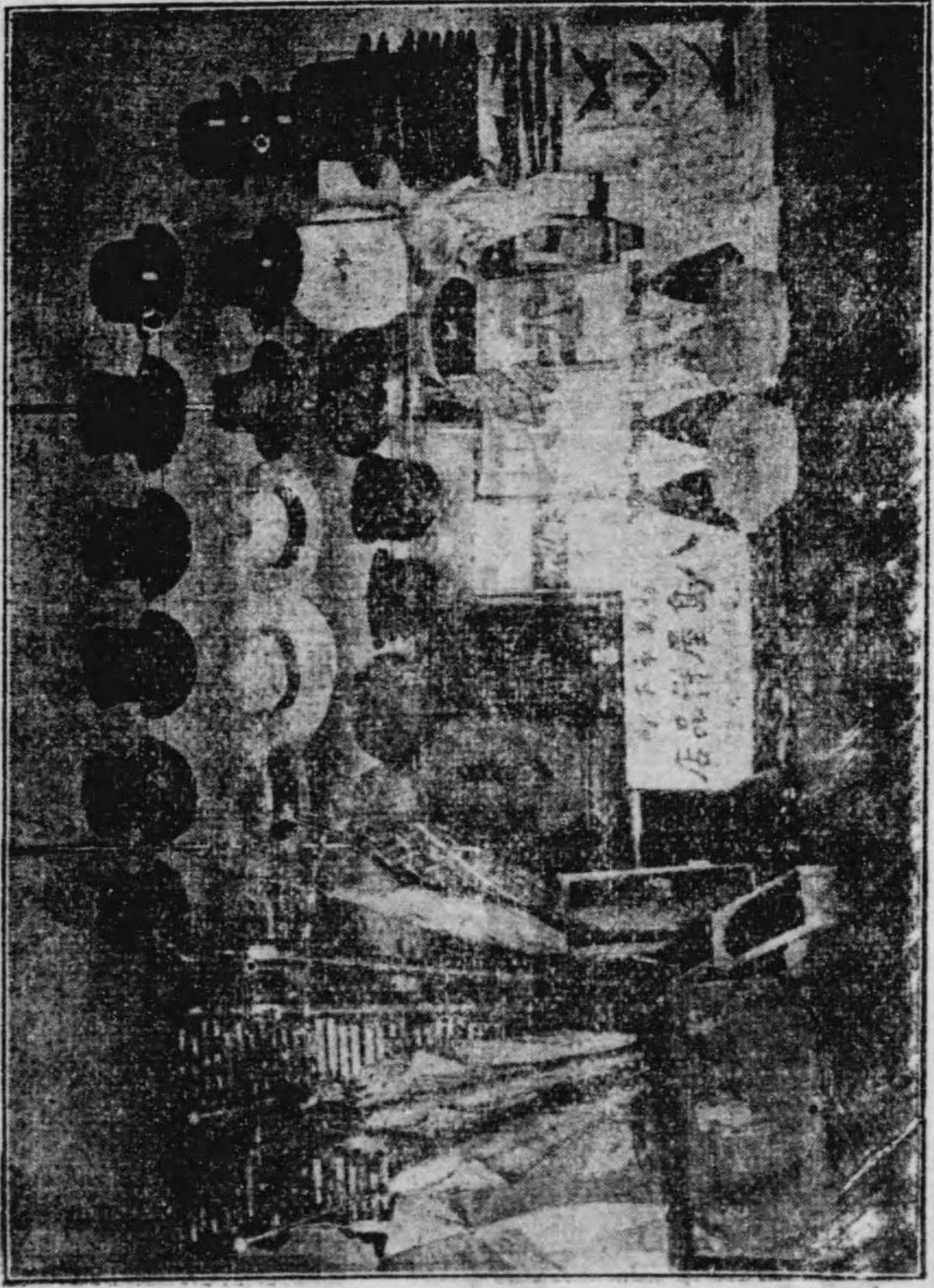
電話長(五三四番)
略(ト)

取締役社長 長谷川 市吉

福島市本町八丁目

電話三六七番

一切帽子新形
スリヤス等優



類套外布毛
子帽子學生各製別

御膳
生そば

ニ文注御テ總

達配速迅シ應

候仕可



向銀行田安町本島福

店本屋多喜

二番四電

於

第五回勸業博覽會

二等賞賜銀牌

福島名產梨菓

松

山

梨

園

福島縣信夫郡笹木野原

大日本菓物會員

松山貫通

歐米流行最新式

ブルドック調製

山田製靴店

福島市本町

於第二回岩手宮城福島三縣
清酒品評會



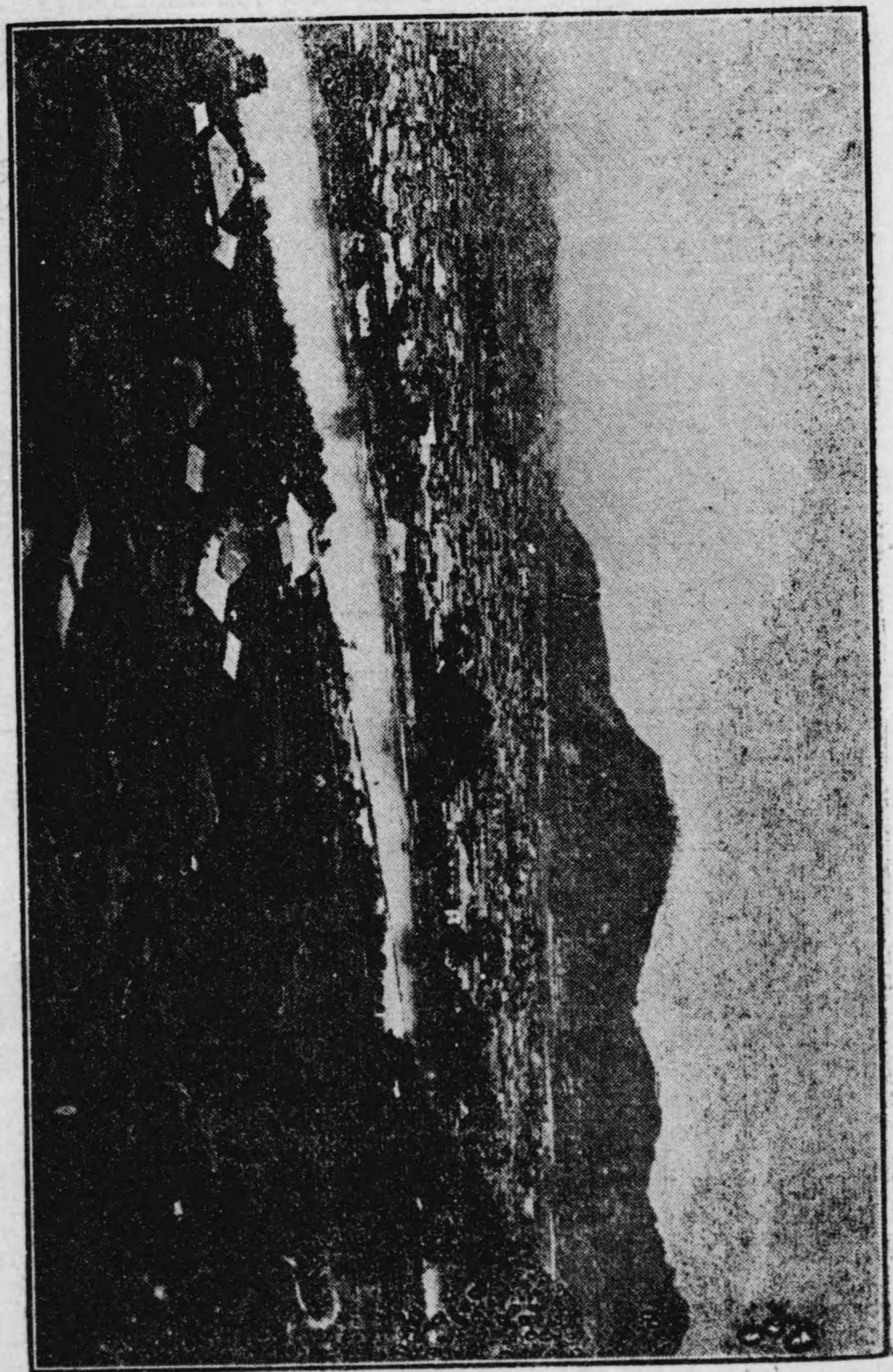
銘酒 龍優等賞 金受頂

星野二即次 釀造元 福本島市
三四六番 電話 約賣店 市島福本
國分酒 大店 電話
店酒分國 番一〇五



信夫公園殉難紀念碑

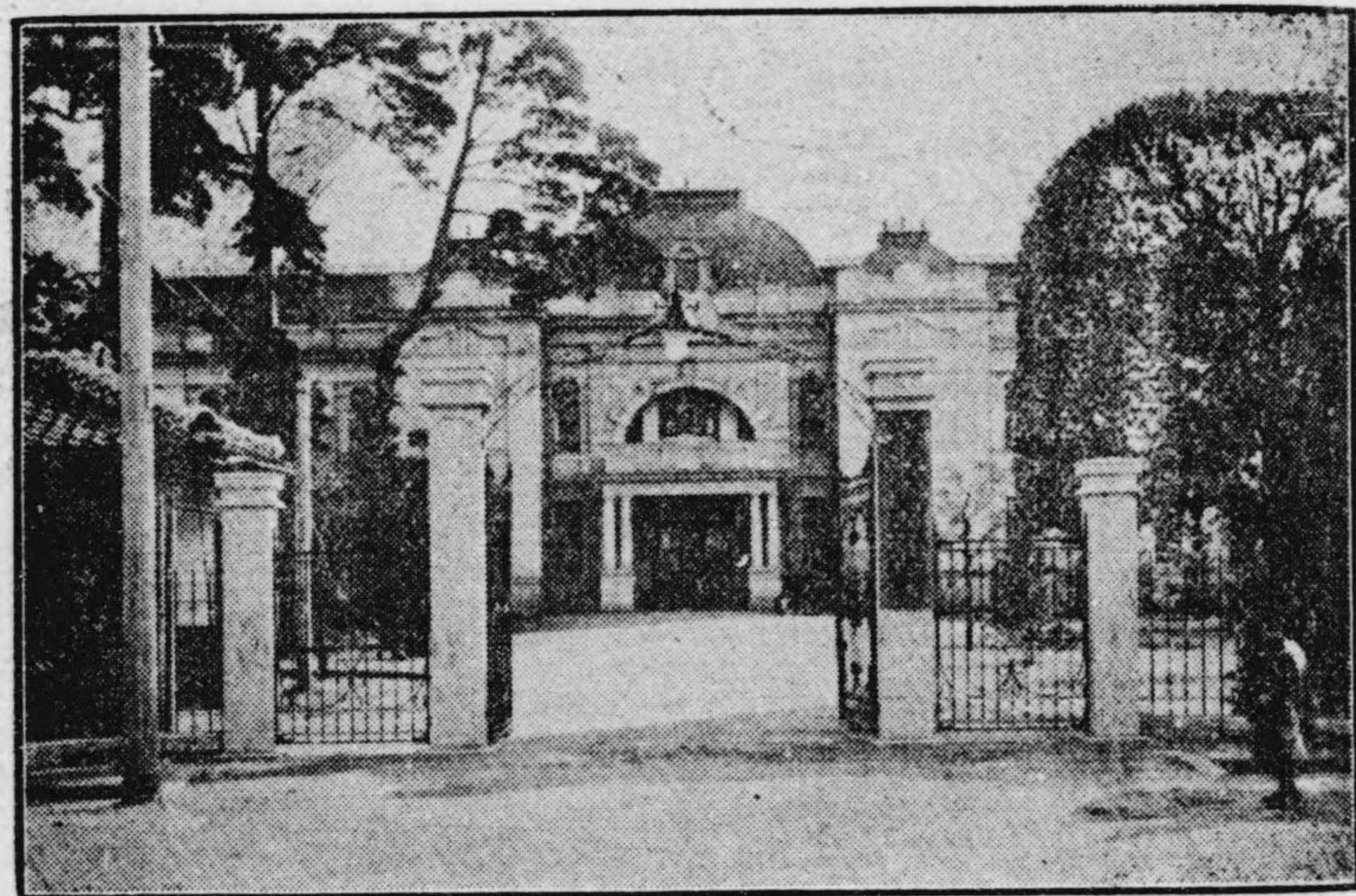
福島市全景遠望



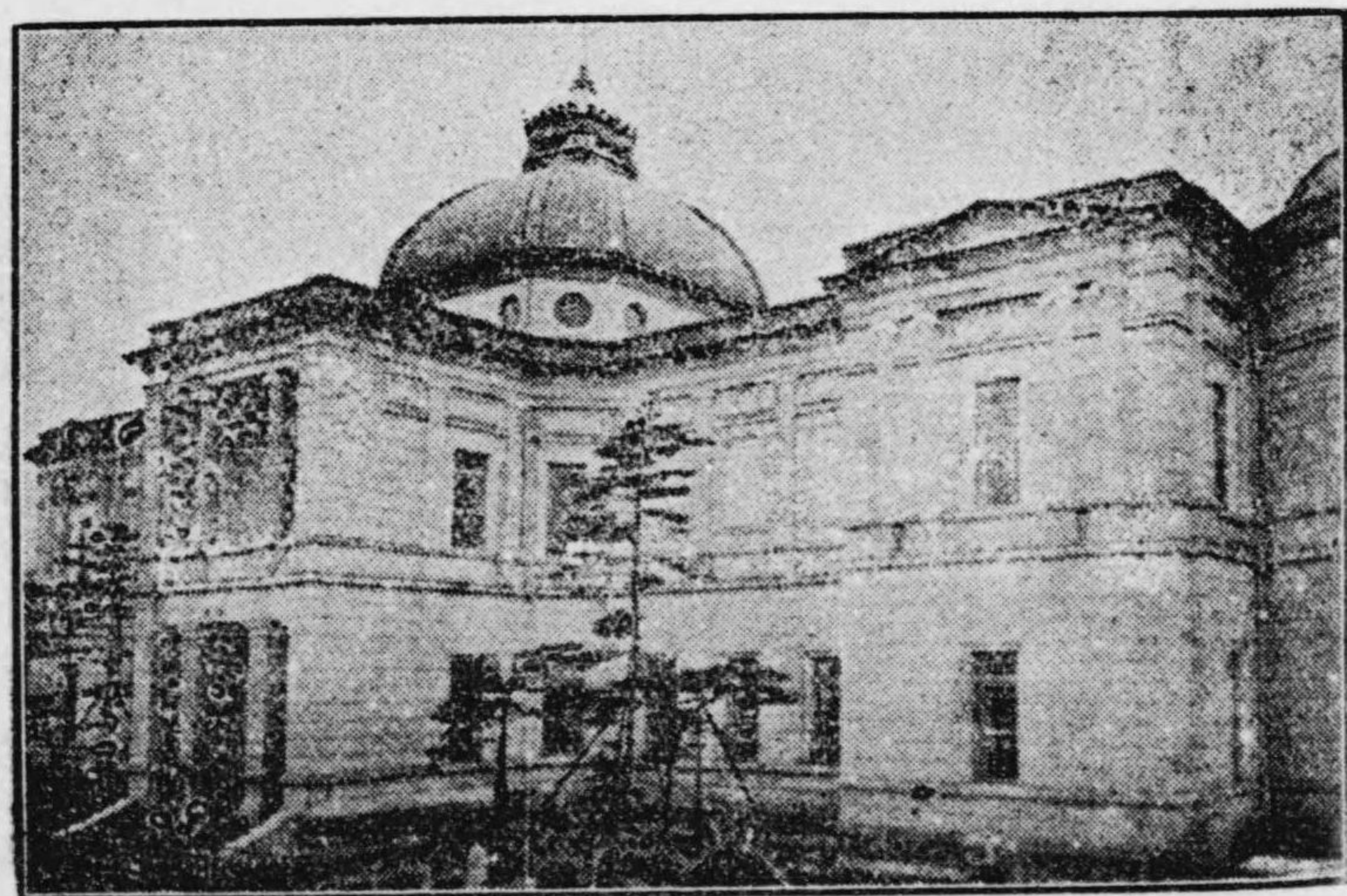
信夫公園



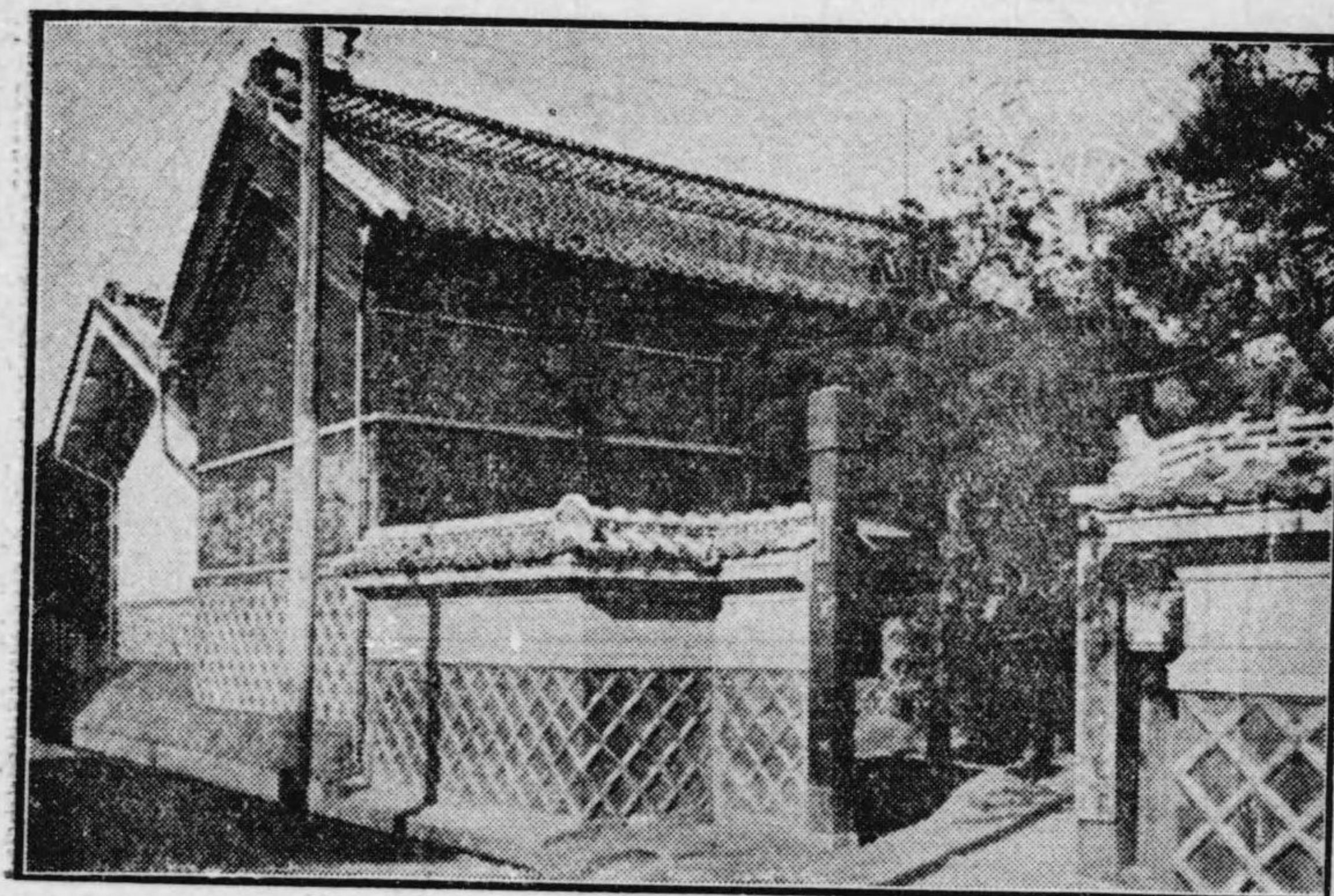
福島市四ツ辻



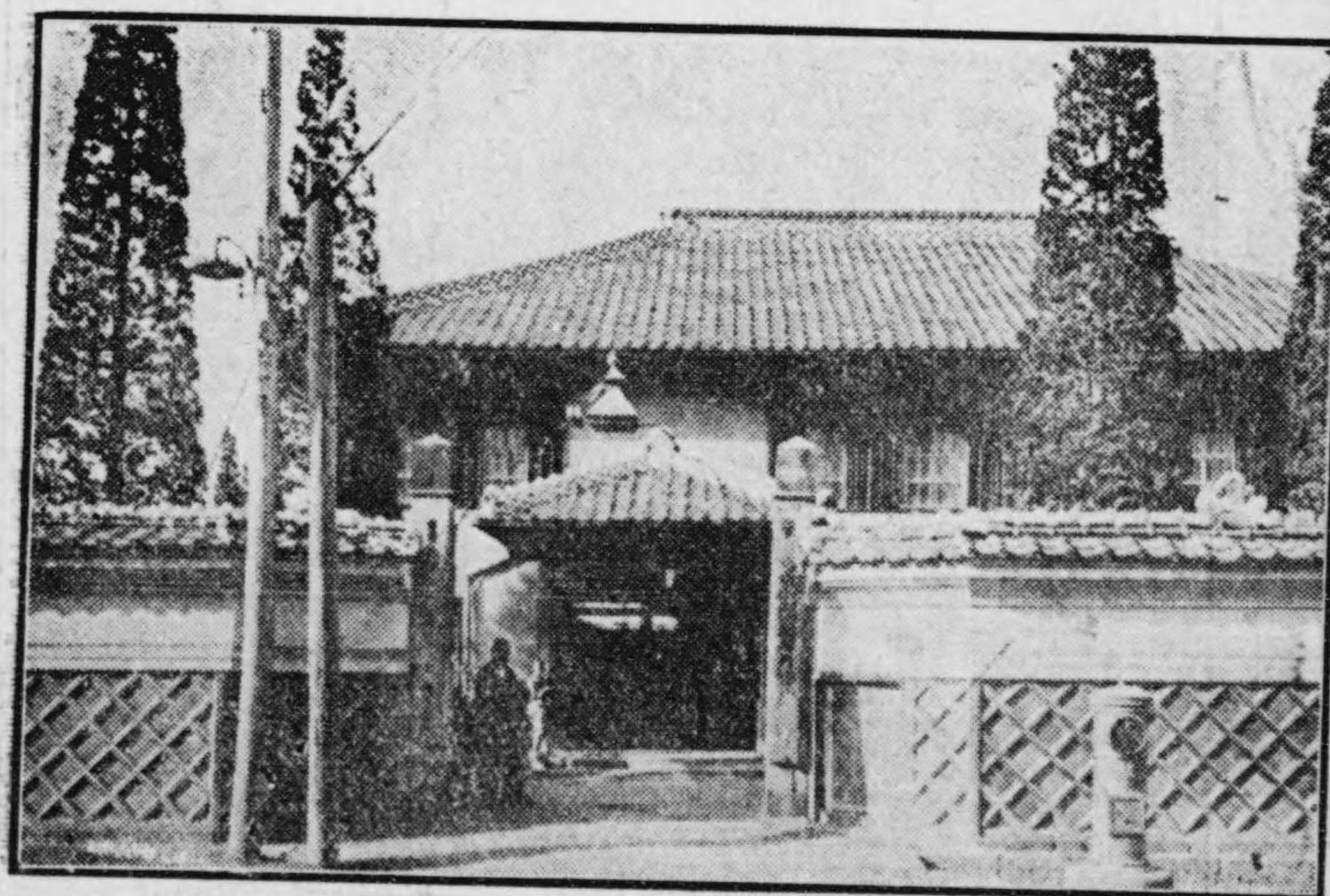
福 島 縣 廳



福 島 縣 立 物 產 陳 列 館



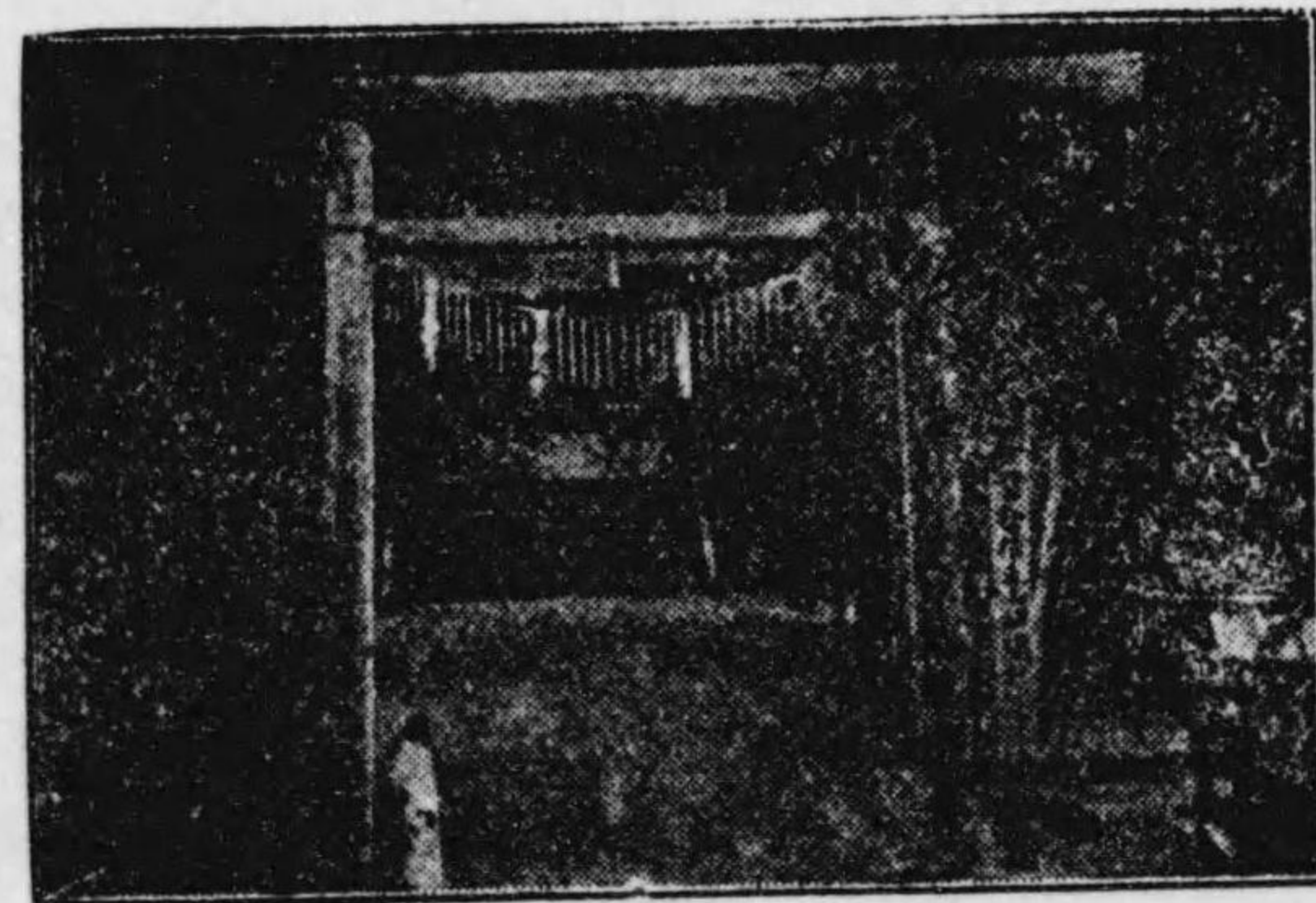
福 島 米 穀 蠶 絲 取 引 所



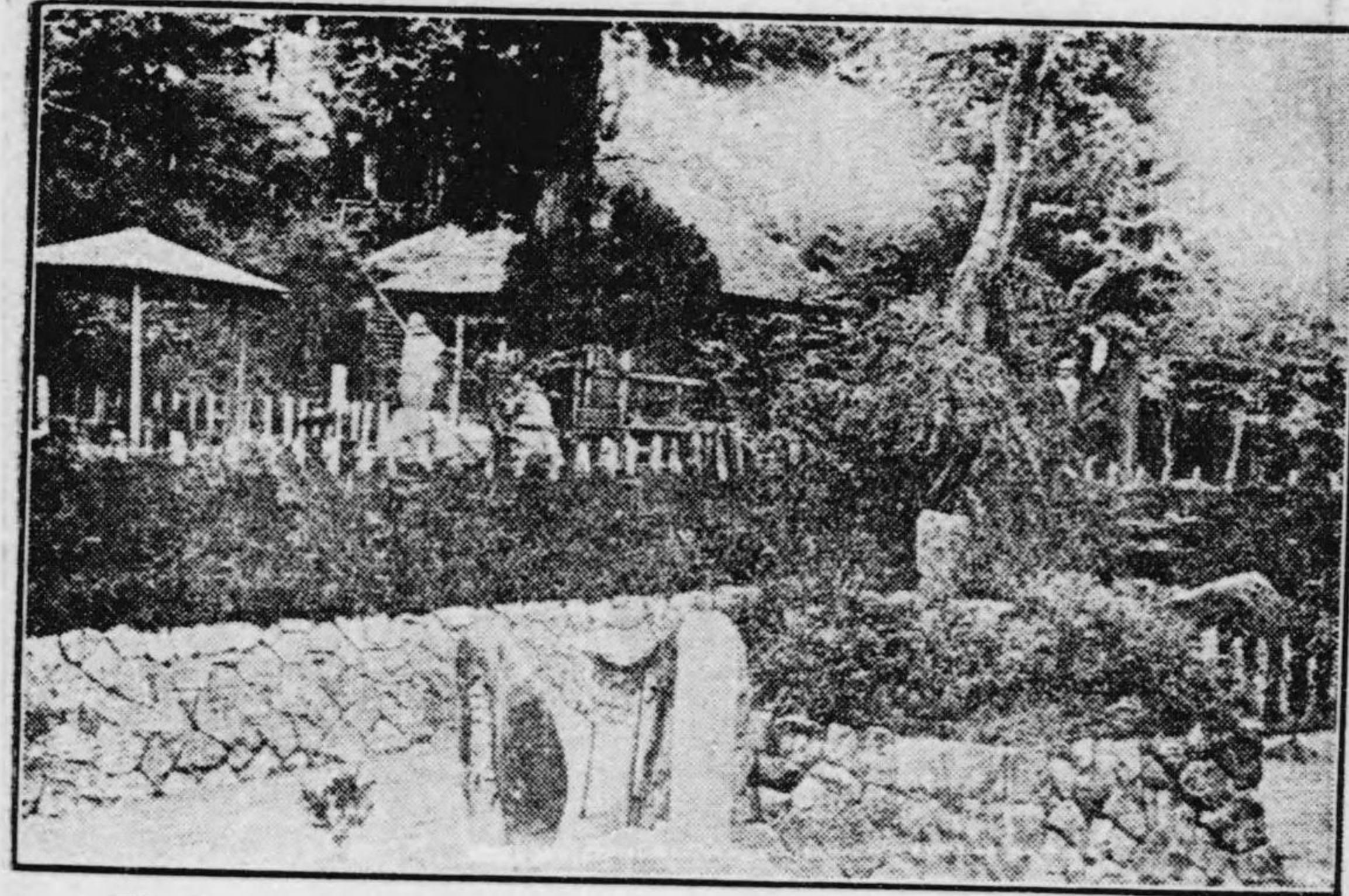
福 島 共 同 生 絲 荷 造 所



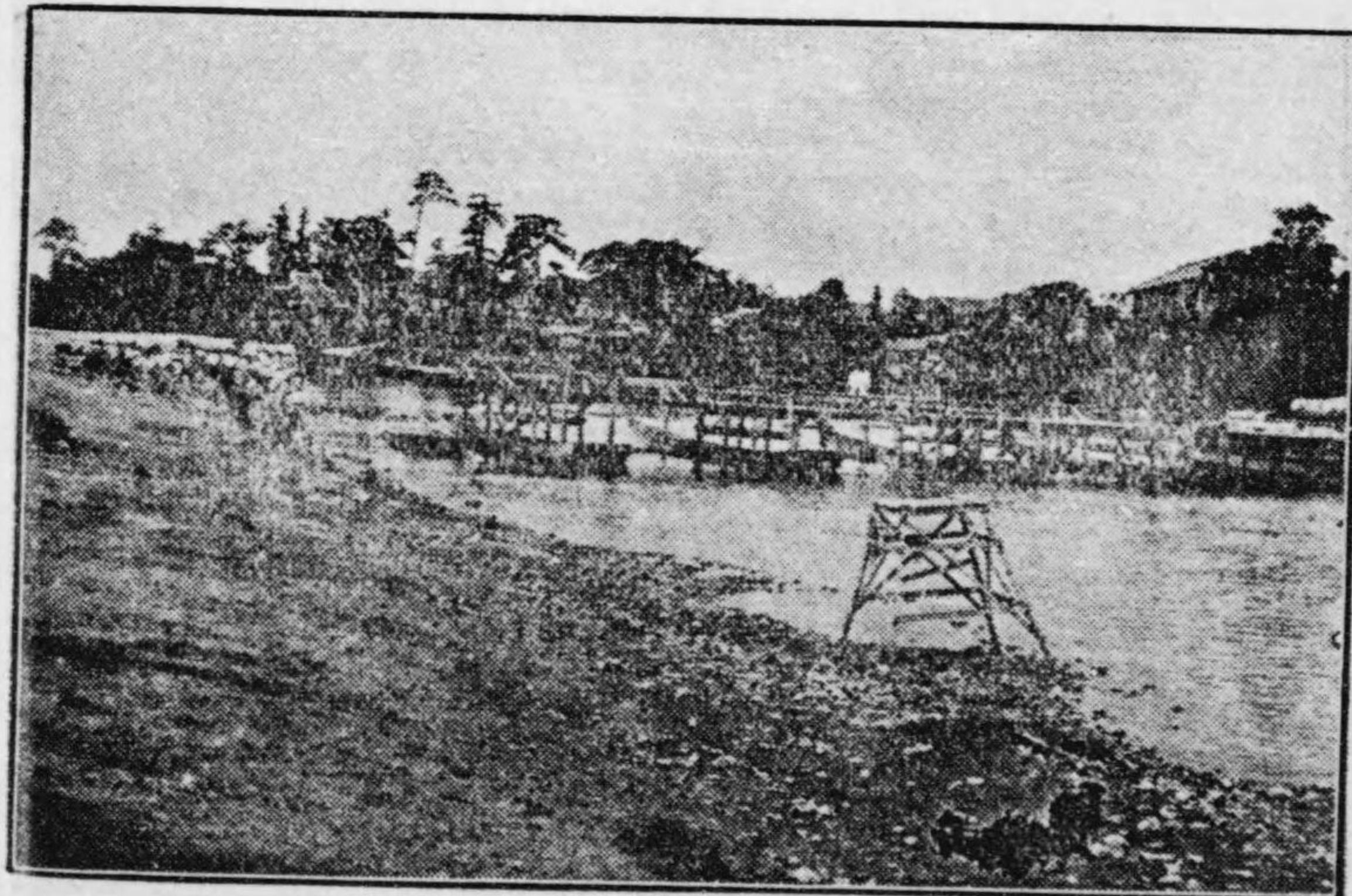
縣會議事堂



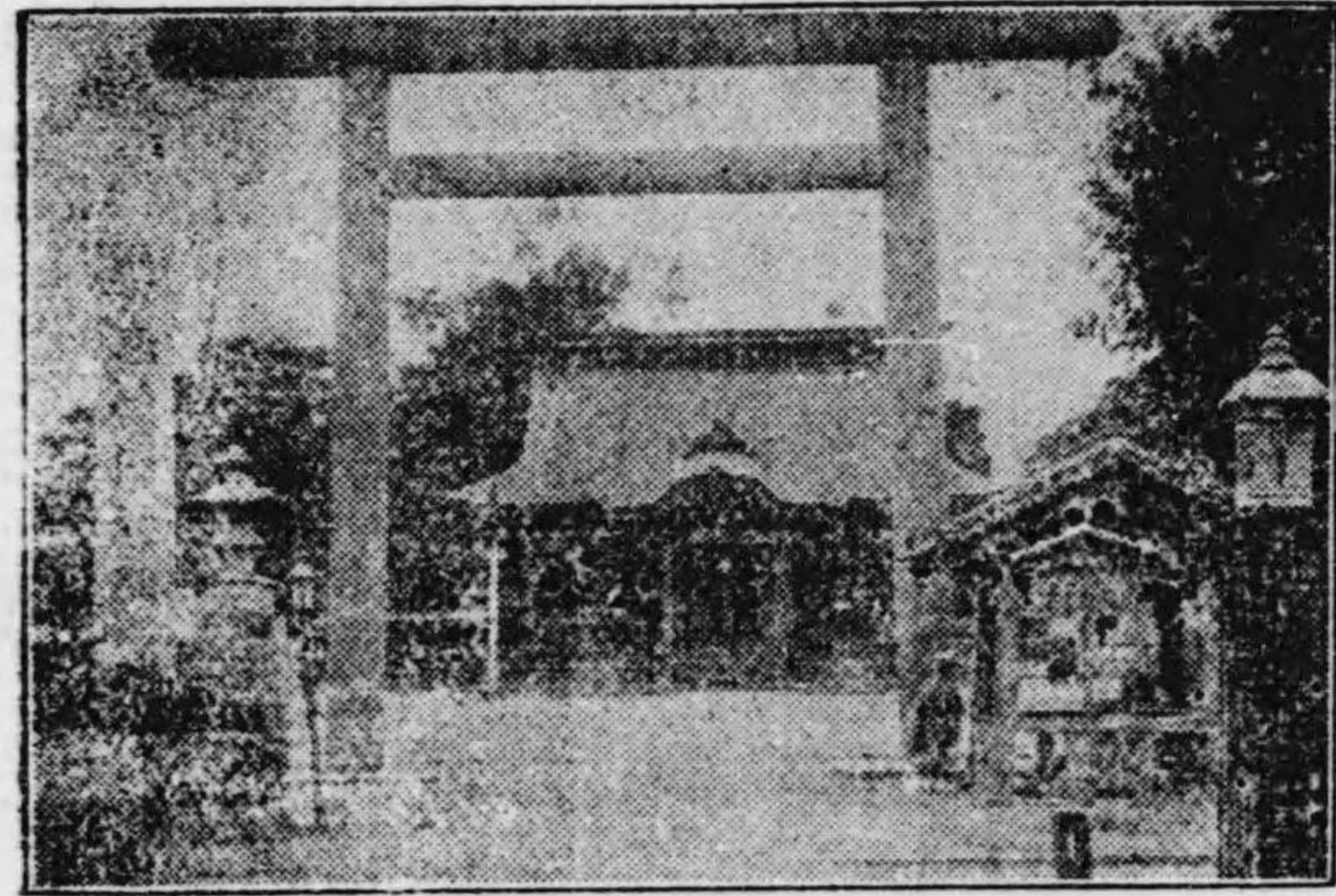
信夫招魂社



信夫文宇招觀音

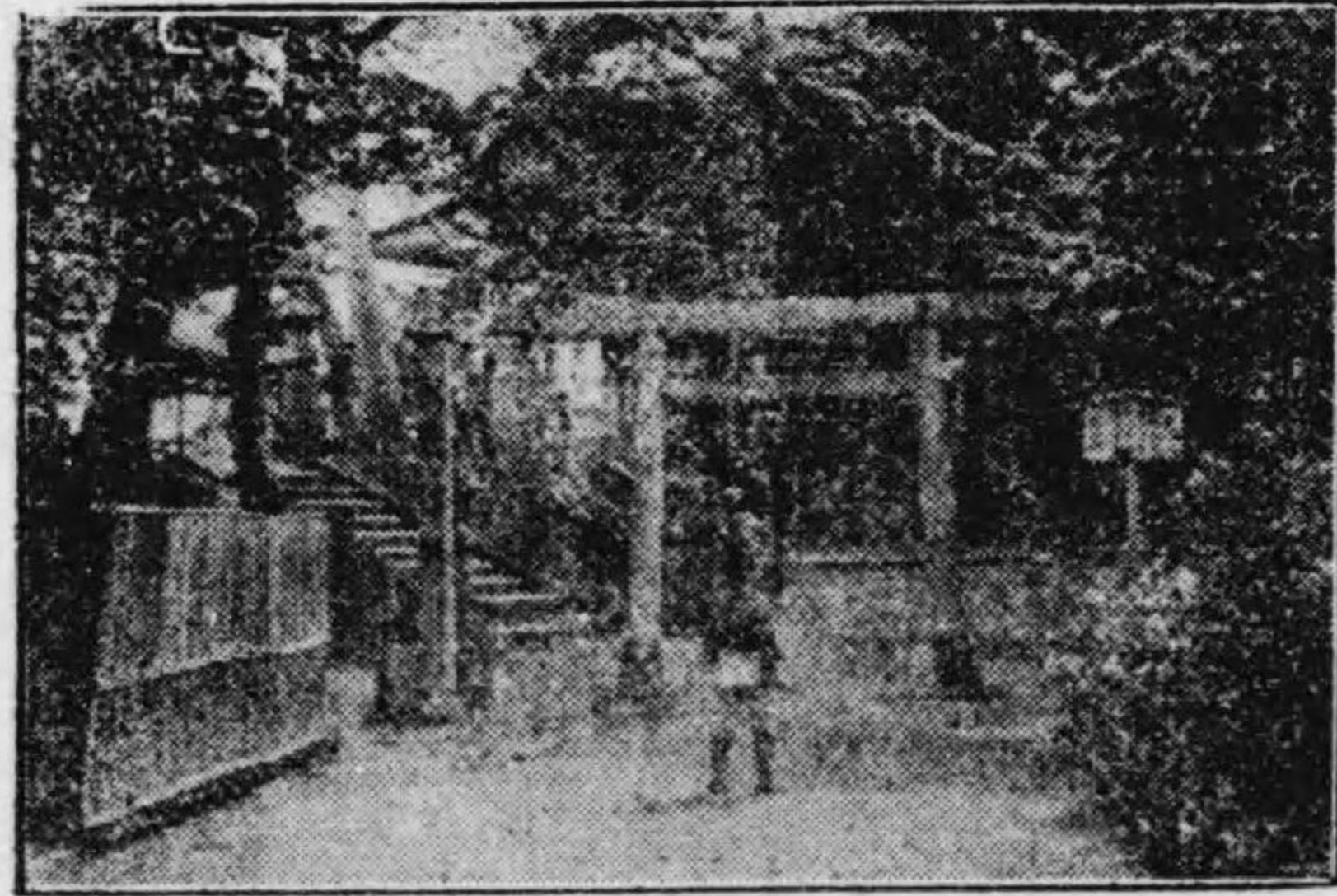


福局松脚橋



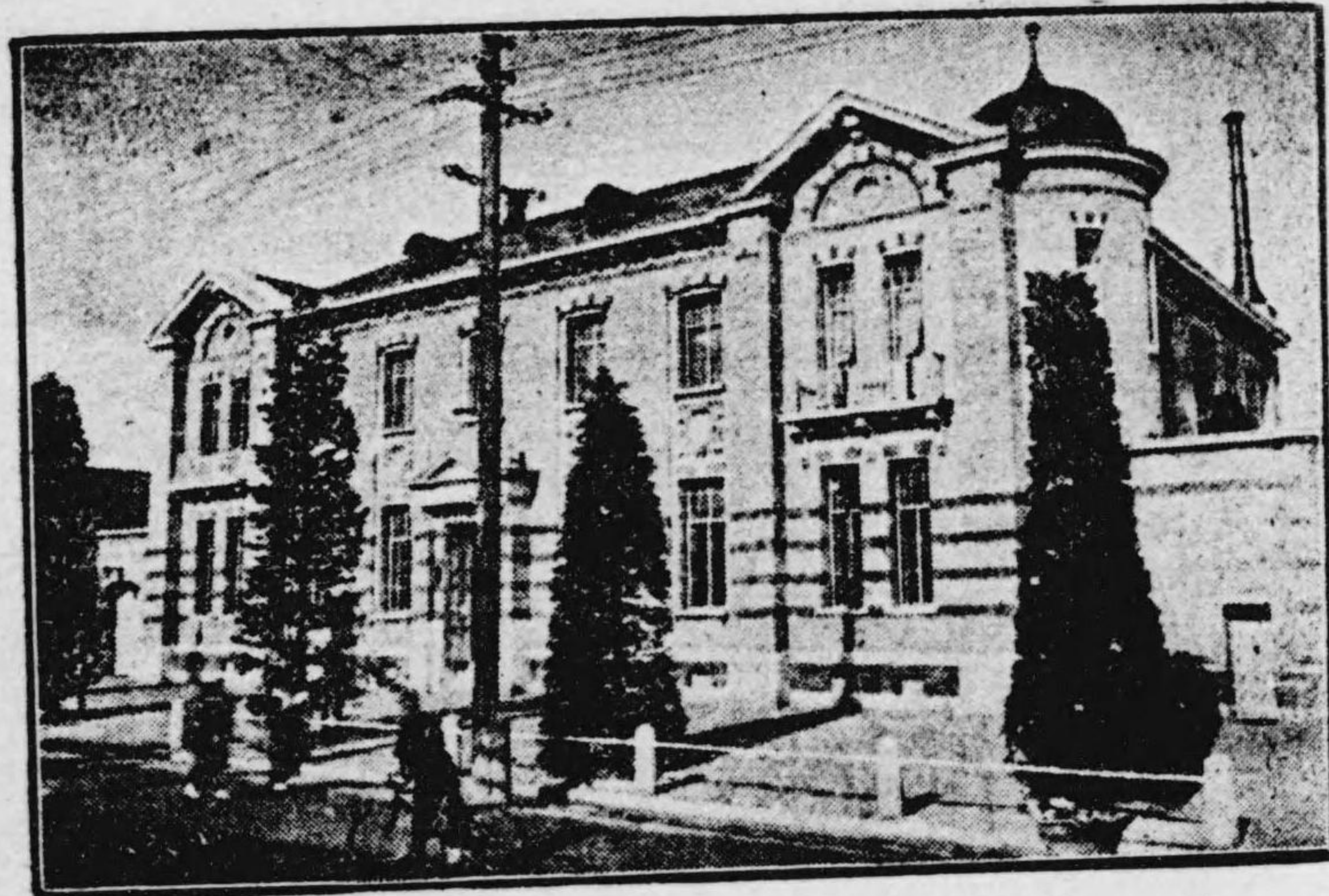
稻荷神社

市 内 公 園

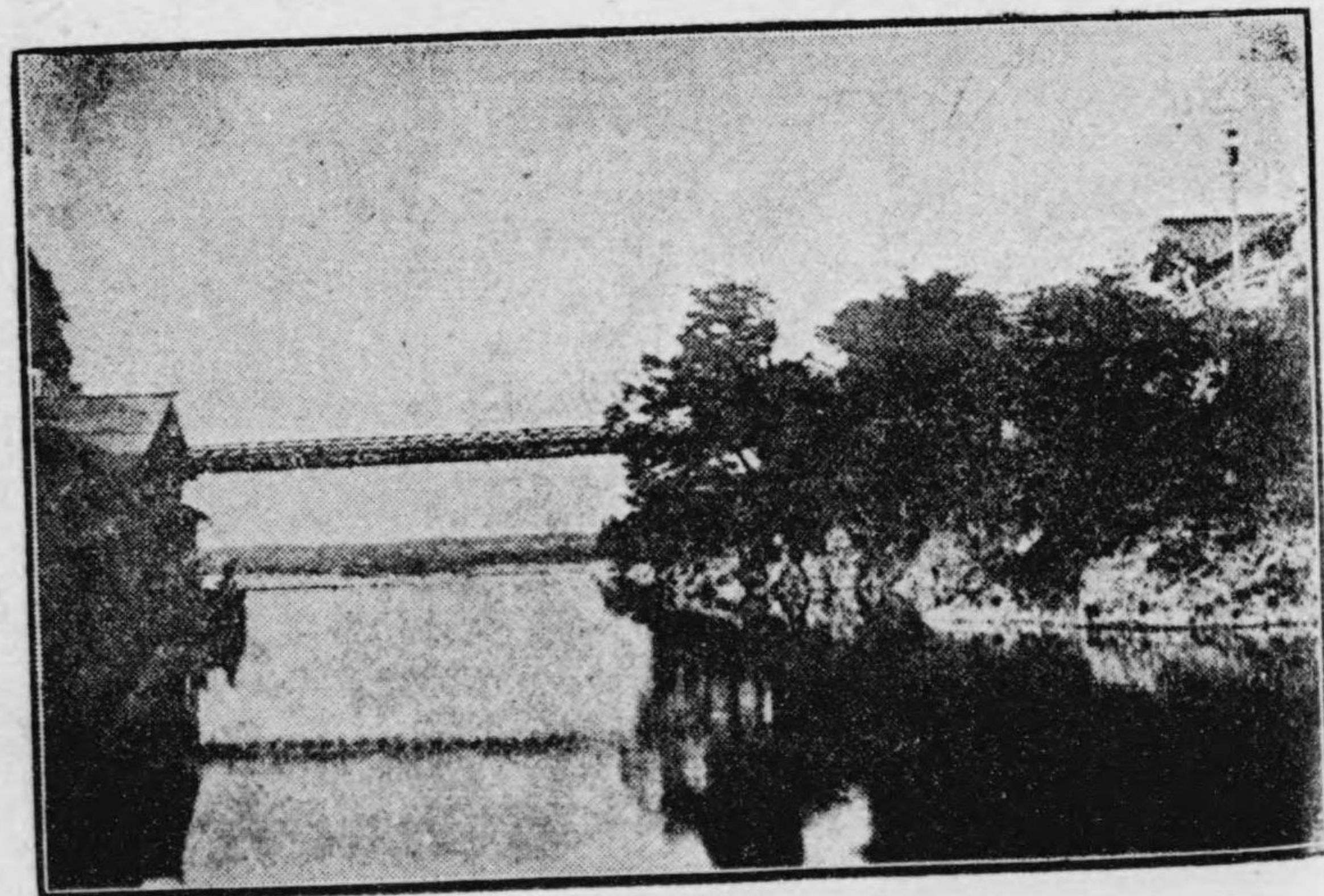


紅 葉 山 公 園

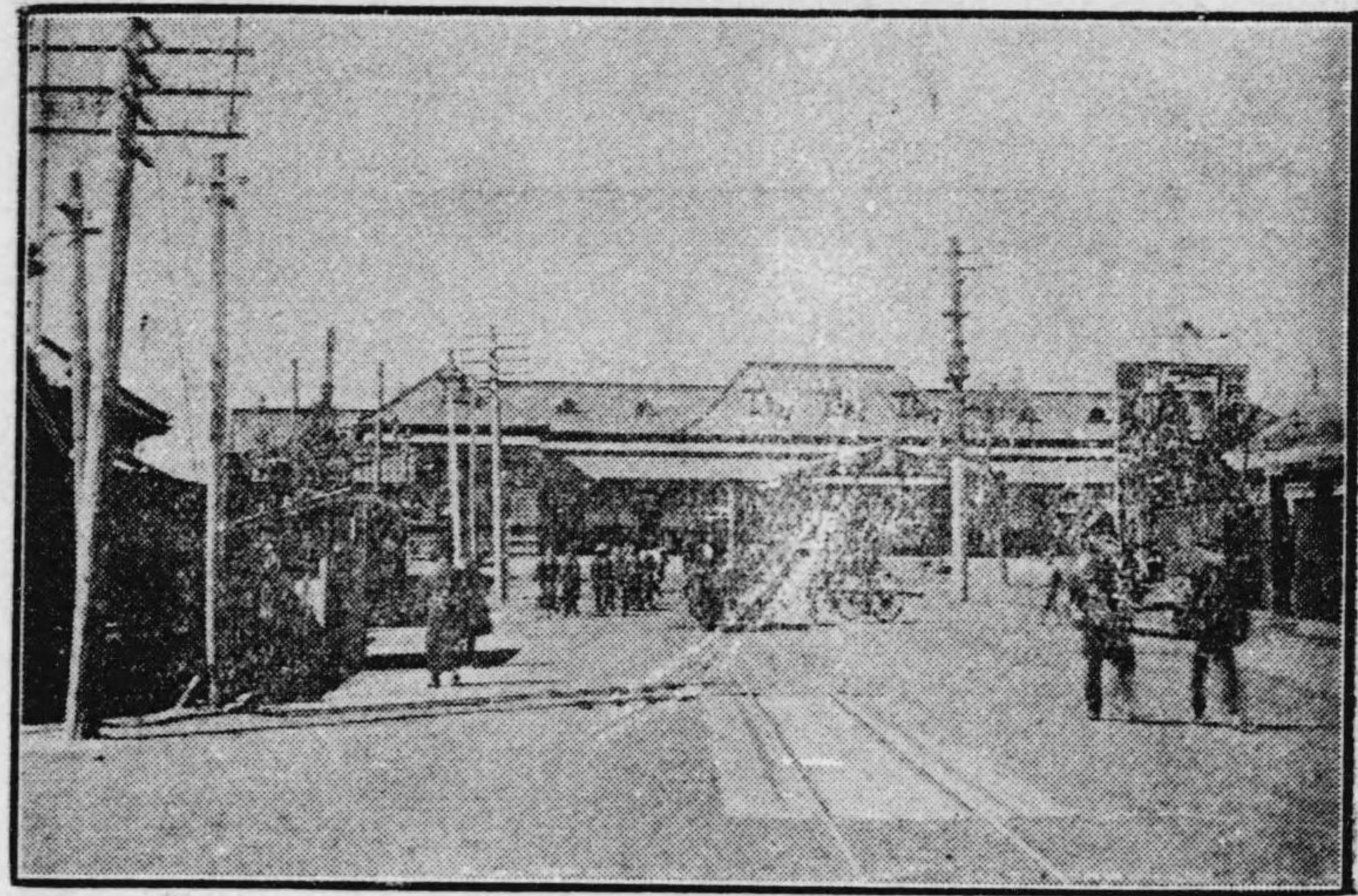




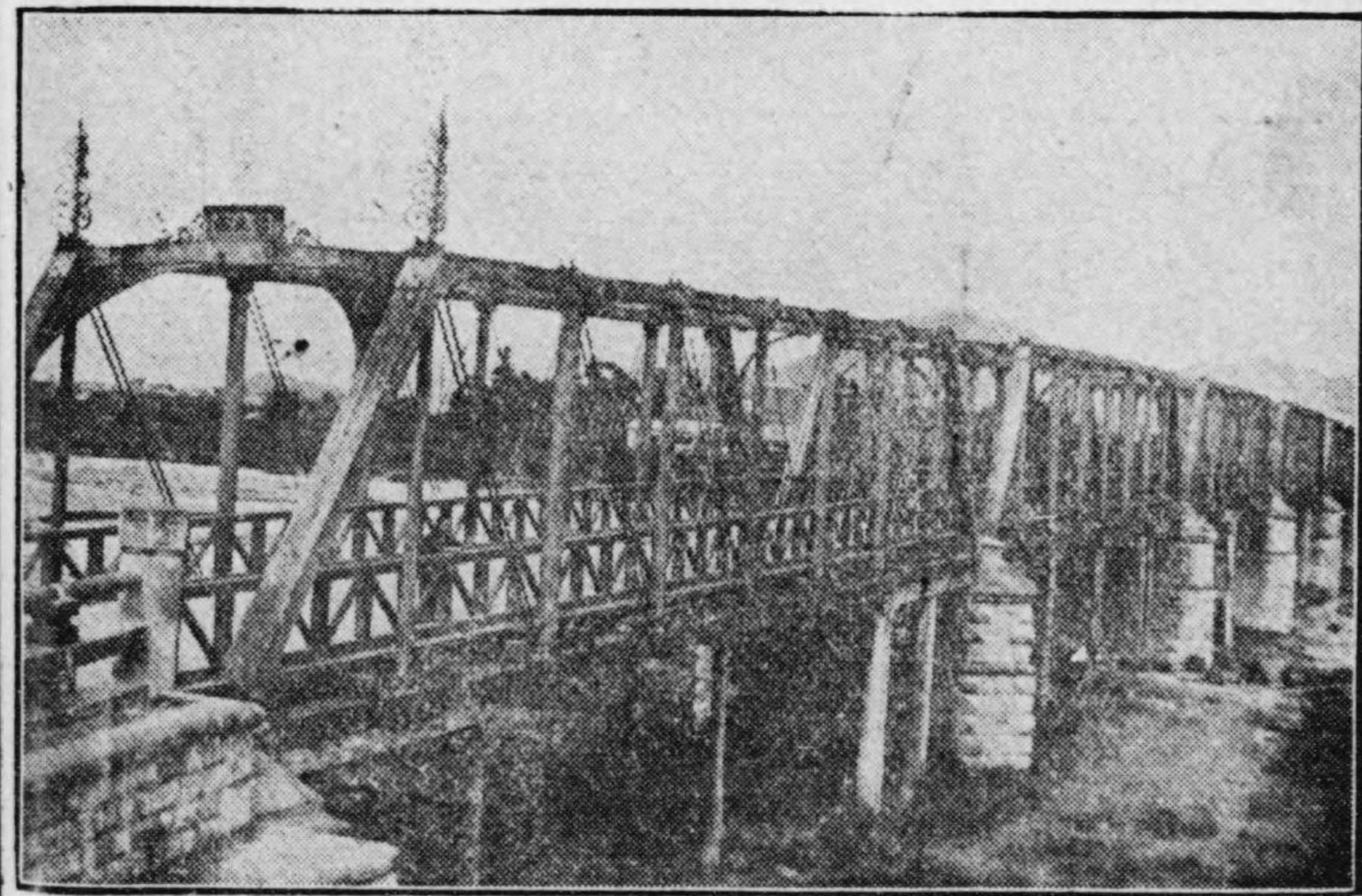
店支島福行銀本日



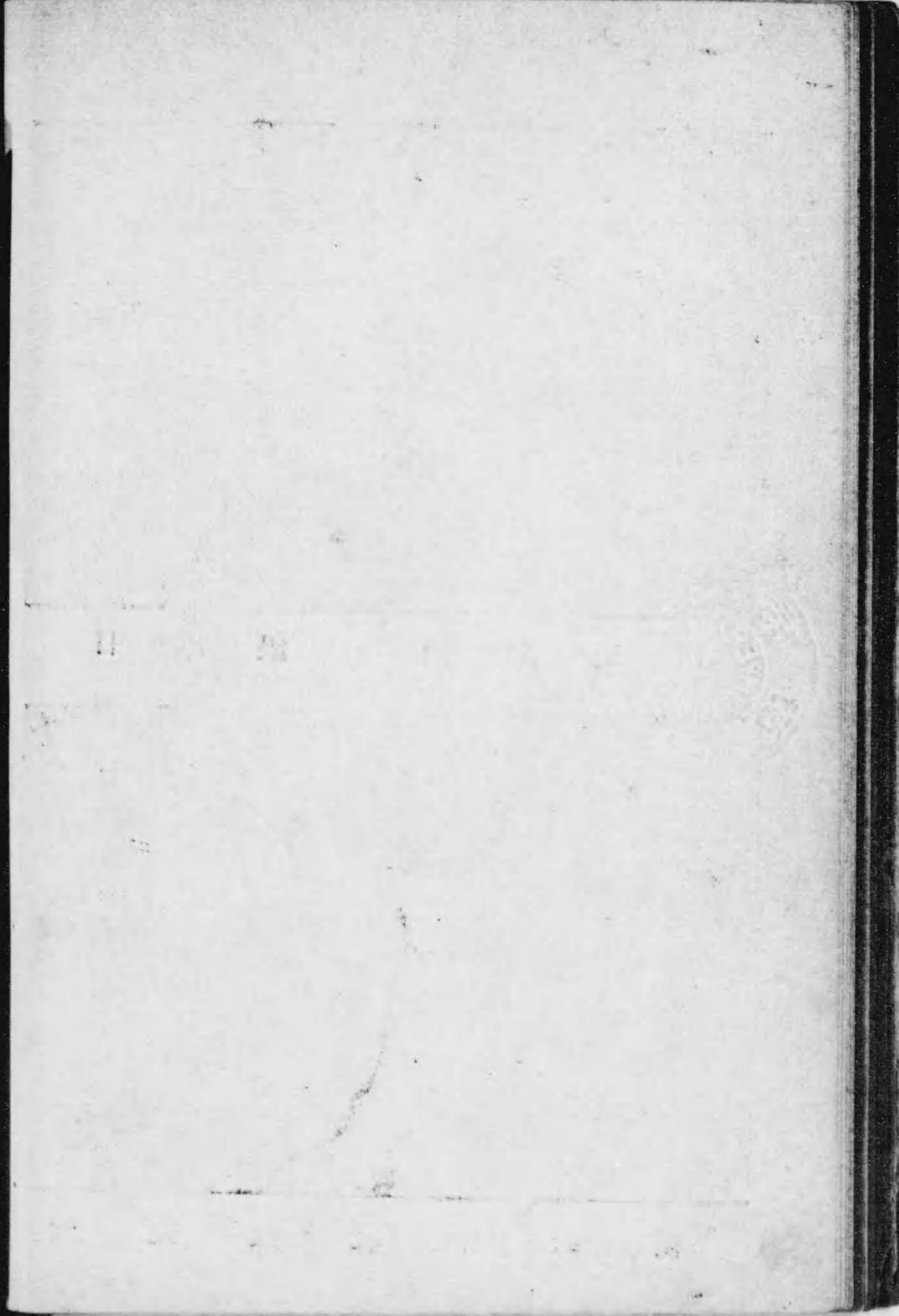
橋綱十坂飯夫信



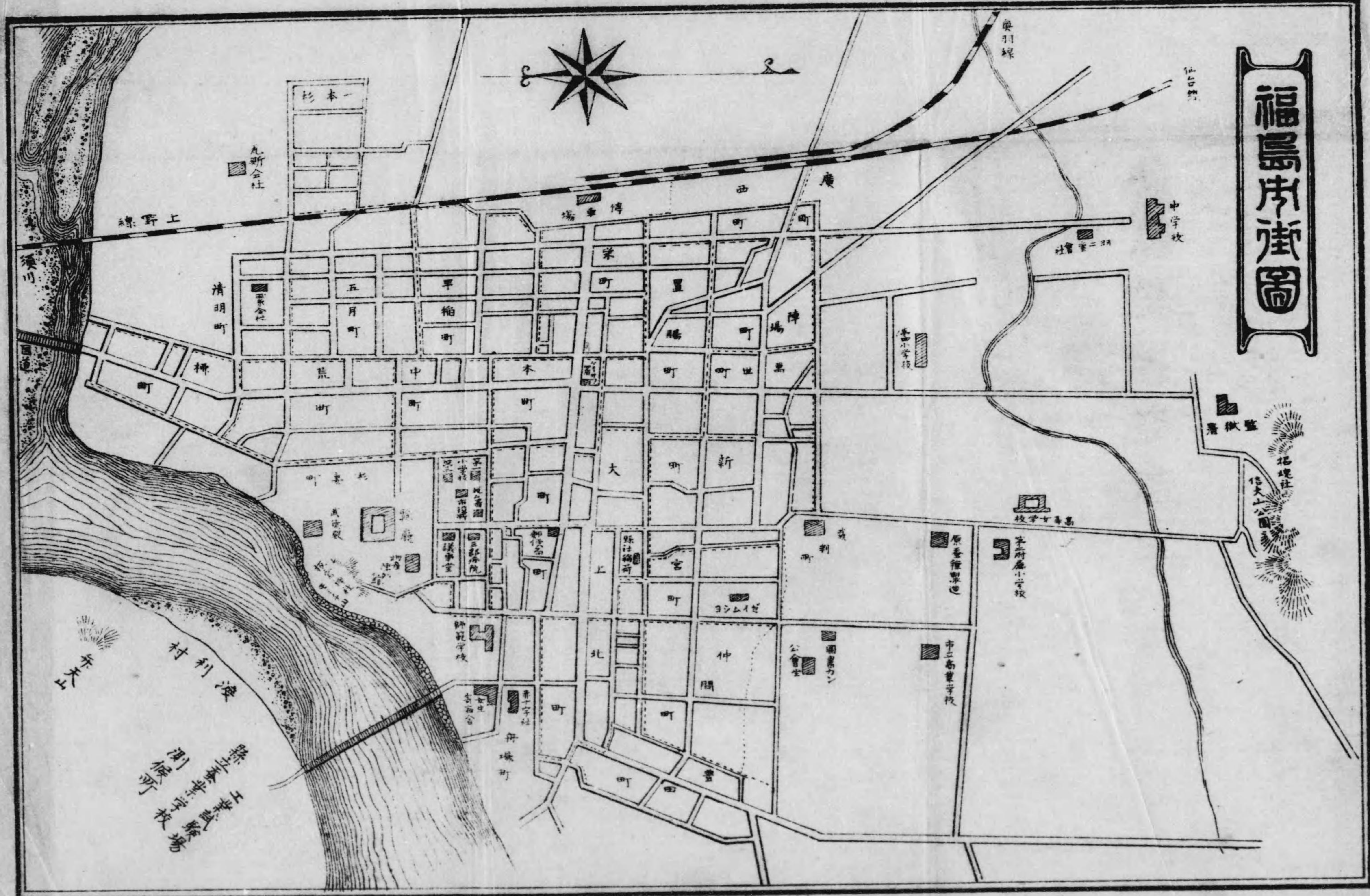
場車停局福



橋夫信島福



福島市街圖





福島縣名勝誌

第一編

大正
2. 11. 13
内交



緒言

福島縣は奥羽の咽喉なる喋々を要せず又名勝誌、案内誌等の冊子乏しきにあらざるも全縣に及ぶ詳細のものを見ず先考廣吉遺憾となす久し不肖其意を繼ぎ是れが發兌に著手すと雖も二市十七郡の廣きに涉り即ち磐城、岩代の二國東西四十里南北三十二里面積八百十九方里餘戸數十八萬七千人百三十萬を有し又崇神天皇の朝四道將軍派遣桓武天皇の朝坂上田村麻呂東征等の故事より古跡勝地を一小冊子に編む容易の業にあらず故に第一編を一市三郡に

と、いめ編を追ふて發兌すべし讀者諸彦是を諒せよ

大正二年仲夏

編者識

目次

○福島市	一	○新聞社及雜誌社	七
○諸官衙	三	○神社佛閣	九
福島縣廳	縣會議事堂	信夫	
郡役所	稅務署	市役所	三
郡共立病院	度量衡檢査所		
武德殿	福島聯隊區司令部		
大日本赤十字社福島支部	東		
京大林區署	福島小林區署	福	
島地方裁判所	福島區裁判所	福	
福島監獄署	福島測候所	福	
島警察署	福島郵便局	電話	
交換所	物産陳列館	圖書館	
公會堂	原蠶種製造所	福島支	
所			
縣社稻荷神社	縣社黒沼神社		
招魂社	縣社板倉神社	岩谷	
觀音	晴明塚	道滿塚	天滿
宮	湯殿山	羽黒神社	靈山
烏ヶ崎	藥王寺	藥師堂	常
光寺	眞淨院	誓願寺	康善
寺	城福寺	東安寺	西蓮寺
到岸寺	慈恩寺	本法寺	乘
蓮寺	寶林寺	長樂寺	寶積
寺	大圓寺		

○諸學校

一九

福島師範學校 福島縣立中學
 校 福島縣立高等女學校 福
 島縣立蠶業學校 福島縣立工
 業試驗場 福島市立商業學校
 訓盲學校 各小學校 幼稚園
 保嬰學校 育兒院 學半塾
 大成塾 教會

○銀行及會社

日本銀行福島支店 株式會社
 福島縣農工銀行 株式會社福
 島商業銀行 株式會社福島銀
 行 株式會社百七銀行 株式
 會社岩代銀行 株式會社安田

銀行福島支店 福島信託株式

會社 東福信託株式會社 福
 島倉庫合資會社 福島電燈林
 式會社 東北酒類株式會社
 福島誠壹株式會社 通運會社
 福島瓦斯株式會社 共同生糸
 荷造所 福島蠶糸米穀取引所
 改良玉糸製糸株式會社 協立
 荷造所 福島羽二重會社
 信夫橋 松齡橋 停車場
 信夫郡 二八
 ○信夫郡 二九
 ○杉妻村 二九
 黑岩虚空藏尊 滿願寺 稚兒
 塚 白菊丸辭世 自休藏吊司

詩 兒碑 諏訪神社 鹿島神
 社

○金谷川村

三〇

蓬萊岩 黒沼神社 貝吹館

○松川村

三三

古城趾 鑛山 天明石

○平田村

三五

石名坂 駒ヶ池一名磨黒池
 伊達家墳墓

○鳥川村

三六

日吉神社

○土湯村

三七

中之湯 下之湯 瀧之湯 新
 瀧之湯 鑛泉の性状及主治

公園 思の瀧 不動瀧 小瀧

鈍子瀧 絲瀧 慕瀧 蒸瀧

風岩瀧 女沼 男沼

○水保村

四〇

吾妻山 硫黄鑛 姥瀧 微温

湯 熱湯 泉性及主治

○庭坂村

四二

清水觀音 發電所 熱湯 瀧

之湯 湯花澤湯 内湯 玉子湯

泉性主治

○大笹生村

四五

白和瀨神社 烏帽子ヶ嶽

○中野村

四六

東屋國神社 大正寺不動尊

不動瀧 籠岩

○平野村

四七

醫王寺 義經手植松 佐藤基

治夫妻墓 嗣信忠信墓 白河

樂翁和歌 義經辨慶遺物 東

屋沼神社

○渡利村

五〇

辨天山 小倉寺觀音 稚子櫻

○岡山村

五一

文字摺觀音 鏡石 綾形石一

名繪子石、又文字摺石 河原

左大臣詠歌碑 堀田侯文字摺

碑 芭蕉翁句碑

○鎌田村

五三

八幡神社 古圓鏡 分捕陣鉦

○瀬上町

五四

桃林 圖書館 去來園

○飯坂町

五六

鯖湖湯 透達湯 波古湯 瀧

湯 赤川湯 天王寺湯 鯖湖

碑 泉性 大鳥城址 古館

十網輪 天王寺 大日本ラヂ

○株式會社

○伊達郡

六四

○湯野村

六五

橋本湯 切湯 狐湯 穴原湯

泉性 主治 湯野堰 愛宕山

公園

○阿武松原 伏黒村箱崎

七六

縣立原蠶種製造場 蠶業講習

所 百壹銀行

○保原町

七七

電氣會社 太宰銀行

○別格官幣靈山神社 靈山 靈山

碑 靈山寺

○小社機織神社 飯坂村

○川俣町

八三

春日神社 羽二重市場 電氣

會社

○安達郡

八六

○二本松町

八七

○桑折町

六七

○御蔭松

○半田村

六九

半田銀山 安田銀行出張所

福島商業銀行出張所

○長岡村

七〇

天王市 太宰銀行出張所 東

北カーバイト會社

○藤田村

七一

義經腰掛松 辨慶硯石

○大木戸村

阿津賀志山古戰場

○睦台村

七五

伊達朝宗墓 葛の松原

城址 雙松館 二本松銀行
百七銀行支店 電氣會社

○本宮町 八八

安達太良神社 愛宕神社 鹽

波山日輪寺 本宮銀行 電氣

會社

○福島縣種畜場 高川村石莖

○高玉鑛山 熱海温泉

○嶽温泉 巖下村永田 泉性主治

○上館下館址 小濱町

○石井清水 糠塚 和木澤村糠

澤 人取橋古戰場 青田村

○縣社隱津島神社 木幡村九五

畠山義繼墓 石井村平石

○安達の原 大平村 黒塚の事

目次

福島縣名勝誌

校閱 月波庵足立月波

編輯 博向堂長澤慶治

福島市

福島市は縣の首都たり市は信夫郡の東部安達郡の北部伊達郡の西南に位し東南は阿武隈川を繞らし市街の廣袤南北三十有餘町東西貳拾有餘町にして北は信夫山を隔て、田園に連り西は遠く吾妻小富士、一切經山を望み戸數五千九百餘、人口三萬四千五百を有し縣廳及び諸官衙は此地に在り且つ奥羽本線は市の西端を過ぎ又米

澤の方面即ち山形、秋田に至るも此地より分岐し加ふるに日本軌道株式會社の經營に係る軌道は此地に起り伊達郡長岡村を経て同郡湯野村及び信夫郡飯坂町の各温泉地に至るへし又長岡村より分岐し伊達郡保原、梁川、掛田の各町に至る等交通の至便市街の繁榮誠に見るべきものあり

此地は板倉氏舊城下にして治承の交杉目行信此處に築き杉妻城と號し蒲生氏の時木村重次此地を領し福島城と改めしと云ふ

福島縣廳は市の東南隅に位し杉妻町に在り、明治四十一年春の再建にかゝれり

縣會議事堂は縣廳の北にして同しく杉妻町に在り其宏壯人の耳目

を引けり

信夫郡役所、稅務署、市役所、三郡共立病院等皆縣廳の北部に並

立せり

度量衛検査所、武德殿、は縣廳構内に在り

福島聯隊區司令部は早稻町に在り近く仲間町に移轉の説あるも尙

其運びに至らざりき

大日本赤十字社福島支部は舟場町に在りて社員は實に二万五千名

の多數に達し成績の良好なる他に誇るに足ると云ふ

東京大林區署福島小林區署は萬世町に在りて事務の多端なる他廳

の上在りと

福島地方裁判所 は新町北に在り南に面し縣廳と相對し一の奇觀とすへし

福島區裁判所 は福島地方裁判所構内よ在りて、民刑の件數奥羽第一なりと

福島監獄署 は信夫山下字狐塚十七番地に在り當時縣令たりし三島通庸の卜地なりと

福島測候所 は信夫郡渡利村大字渡利に在り觀測能く其肯壁に中れりと云ふ

福島警察署 は本町に在り福島停車場を東に距に僅か參町にして置賜町、本町、大町、榮町、岐るに四又最も人衆輻輳の場所警察署

としての位置尤も其處を得たりとす

福島郵便局 は上町、杉妻町、舟場町、大町、に岐る、四又の其角に在り事務の神速を以て鳴る

市内中町、榮町、萬世町、豊田町に三等局の設けありて至便なる喋々を要せざるべし

電話交換所 は福島郵便本局内に在りて既設電話の數今や七百に垂々とし尙増架の準備中なりとぞ

物生陳列館 は杉妻町にして縣廳と紅葉山公園との間にあり明治四拾四年中の設立に係り縣下の物産として生絲、羽二重、其他織物

は勿論會津特産の漆器、陶器を始め遠く鹿兒島、静岡、山梨等各

縣の物産をも陳列し事務員の親切と陳列品の正確と安價とを以て名あり

圖書館 は明治四十一年春舊縣廳舎を移し之に充て仲間町に在り公

會堂に隣りし藏する處の圖書夥しく多しと云ふ

公會堂 は宮町に在り明治三十一年中舊縣會議事堂を此處に移した

るものにして優に三千人を容るへし近く仲間町圖書館の東に移し

圖書館と並立せしむと云ふ

原蠶種製造所福島支所 は明治四十四年政府の指定に依り信夫山下

字楊枝柳に在り敷地三千坪附屬桑園三町歩〔敷地續き貳町歩伊達

郡湯野村二町歩〕高等女學校と一條の道を隔て其東に在り輪奐

宏壯又市の花とす

●新聞雜誌

○福島新聞 は日刊として最も古く不偏不黨主義記事亦精確號を

重ぬる正に壹萬に達せんとす以て其隆盛知るべきのみ

○福島民友新聞 は福島市上町あり亦日刊報道確實迅速を以て

名あり今や號を重ぬる六千號に達せんとす其隆盛なる想ふべし

○福島民報 は福島市榮町にあり新聞は一に記事の精確なるのみ

ならず其無休刊なる他新聞に優れり號を重ぬる七千號に達せんと

す日に隆なる原因此に在るか

○大正雜誌社 は福島市荒町にあり大正二年三月初めて發行月刊

とす其記事精密公告の幼偉大とす

○新東北は福島市本町にあり亦月刊にして商事奨励を主眼とすと
雖名種の欄を設け各種に涉りて報道怠らず是又公告効力偉大なり
と云ふ

縣社稻荷神社 縣社稻荷神社は市の中央宮町に在り其境内清麗固よ
りなり今又氏子に於て之を現時の七倍に擴け一の公園境内となす
の計畫定まれりと

社殿は文錄年間再建に係ると雖も本社は從五位下安倍晴明伊勢山
田より移したりと説録に存せりと云日ふ夜參拜者絡繹たり

縣社黑沼神社 縣社黑沼神社は信夫山にあり欽命天皇の皇后石姫

命を祀る所なりと、時代等詳ならず、公園内に在りて招魂社と相
併べり

官祭信夫山招魂社 附信夫山公園 招魂社は信夫山公園に在り招魂碑戰

利巨福等あり社前櫻樹數十株文人黒客の杖を曳くもの四時絶わす

眺望隨一の勝地とす逢隈河流吾妻小富士伊達郡の靈山及び半田銀

山皆一眸にあり遊ふもの快を稱ふ

伊勢物語 第十五

しのふ山忍ひてかよふ道もかな 業 平

人のこころのおくも見るへく

新編拾遺

尋いらん道もしられぬ忍ふ山

俊 成

袖ばかりこそしほりなりけり

招魂社碑は元老院議官中村正直先生の撰にして内閣書記官金井之
恭先生の筆に成り篆額は陸軍大將兼參謀本部長一品大勳位熾仁親
王殿下の御筆謹慎相仰くのみ

縣社板倉神社 附紅葉山公園 紅葉山に在り紅葉山は紅葉山公園と稱し
東南阿武隈川に臨み縣廳を東に距る漸く二町川を隔て、蠶業學校
工業試験場其他及渡利村公園辨天山を瞰下す眺望に富む隨一の處
とす若し福島は足をの士にして紅葉山公園に遊ばざれば福
島の風致を云爲する能はざるべし

信夫山公園と共に風光絶勝の地とす

岩谷観音 は信夫山腰東方に在り頗る風致に富み又一勝地たり遊ぶ

もの多くは信夫山公園より路を取るを便とすと云ふ又本道よりの
便は軌道あり何れを出るも便ならざるはなし

清明塚、道満塚 清明塚は清明町に道満塚は字道満塚に在り二塚共
に早稲町の西須川の北にありて口碑に傳ふ曰く昔神龜年間一の大
老杉樹枝葉茂り田圃の害を爲す甚太しく土民官に請ふて之を伐る
杉靈 崇を爲す朝廷安倍清明、芦屋道満に命じ下向せしめ祈らし
む二人杉鬼を慰め祀る杉妻神社是なり清明塚は鐵道路の東松樹の
下一小石祠を安置する處、道満塚は字阿彌陀堂の南老杉古松の

處にあり

天満宮 は曾根田に鎮座す四圍田圃境内の槻梅數株信夫山公園の櫻
樹よりも趣を存すと云へり祭神は菅原道真公にして寶曆年中藩
州曾根崎より勤請せりと云ふ社前碧梅一株あり他に移栽すれば白
花に變すと云へり

湯殿山 は信夫山の西端にあり堂宇の建立なく只松樹の下巨巖偉石
の處に白幣を立神座とす

羽黒神社 は信夫山の中央に鎮座す古記に

欽明天皇の皇女を祀るなりと堀田侯の誌す處たる華表記には石姫
皇后を祭れるもの、如し或は出羽國羽黒權現を移し祭るとも云へ

り路の左右に八幡宮、山王宮、牛頭天王、天満宮、三寶荒神、稻
荷神社の六祠あり是を御山の六宮と云ふ

靈山 信夫山の西南麓の字にして福島中學校の後方にあり巨巖怪石
あり松樹林をなし林中十六羅漢、三十三觀音の石像あり清境佳
景賞すべし

烏ヶ崎 は羽山(信夫山の中)の西崖にあり奇石怪巖重疊妙致言ふ
べからず眺望佳絶信夫草の佳なるもの此地の産を以て第一とす

藥王寺 は信夫山の中央にあり天臺宗武州寛永寺の末山本尊は日出
不動尊にして僧行基の作なりと又古へは信夫院と稱せる草庵に過
ぎすと云ふ

藥師堂 やくしどう は藥王寺の西にありて峰の藥師と稱し靈顯高く賽至するもの多しと云ふ

常光寺 じょうこうじ は清明町にあり福島唯一の大伽藍なり遠江國周智郡中田村

曹洞宗雲林寺の末派にして宗祖道元十一世法孫長規開基創立す初

め信夫郡大森村にありしを天正の始め此地に移すと云ふ

本尊は僧行基の作に係る虚空藏菩薩にして本堂の外開山堂靈屋衆

寮鐘樓十王堂觀音堂寺あり壯麗を極む舊福島藩主板倉家の墓所

在り

眞淨院 しんじやういん 清明町にあり延曆癸亥年二月二十日原祖弘法大師の開基

にして本尊は金剛界大日如來なり

誓願寺 せいがんじ 五月町にあり淨土宗永祿十丁卯年照蓮社良會の開創とす

康善寺 こうぜんじ 五月町にあり文歷元甲午宗祖親鸞の法弟明殺信夫郡黒岩村

に庵を結び名けて秀安寺と云ふ是れ本山の開基なりと本堂の外太

子堂鐘樓等ありて寶物什器又稀世のもの多し

本尊は阿彌陀如來にして宗派は眞宗本願寺の末派なり

城福寺 じやうふくじ 早稲町にあり天正年中木村伊勢守重次草創し乘範上人の

開山に係ると云ふ眞言宗新義派に屬す天保年中祝融の災に罹り舊

記の存するものなきも寶物として藏するものは金光明最勝王經壹

部及び知證大師の筆に成れる佛畫像等あり本尊は大日如來なり

東安寺 とうあんじ 早稲町にあり曹洞宗總持寺派にして信夫郡平田村陽林寺の

末寺開山は薰主聯芳和尚なり其年月詳かならずと雖ども聯芳和尚の遷化は慶長十七年八月十九日とあるを見れば其時代ならむ文政九年火災に罹り今の堂宇は同十年の再建に係ると云ふ

西蓮寺 大町にあり本尊は阿彌陀如來西本願寺の末派に屬す

到岸寺 大町にあり淨土宗にして磐城國成徳寺の末派元文中一蓮社良憲上人一可和尚之を開創す本尊は慈覺大師の作阿彌陀如來

なるも本堂に安置せるは大日如來にして世に所謂大杉大佛是なり

慈恩寺 大町にあり臨濟宗にして羽前國法泉寺の末派なり慶長二丁

酉僧益傳之を開創す

本法寺 新町にあり西京法皇寺町日連宗要法寺末派慶安二巳丑僧

日實の開基に係る初め曾根田字坊屋敷にあり承應三甲午年日珠上人此處に移すと云ふ明治十四年四月火災に罹り舊記烏有に歸し由緒詳かならず

乘蓮寺 新町にあり眞宗大谷派の末派開基詳かならず宗祖親鸞十四

世法孫琢如の弟善了寛文十一年三月十八日之を中興すと云ふ寶物

として希世のものを藏すと云ふ

寶林寺 御倉町にあり宗遊行派相州鎌倉淨光寺の末寺永仁五丁酉

年正月他阿眞教之を創立す數次祝融の災に罹り舊記詳かならず

本尊は阿彌陀如來脇佛は觀音大士勢至大士なり

長樂寺 舟場町にあり曹洞宗にして越後國岩船郡洞雲寺の末派慶長

五年庚子本莊繁長の福島城に移るや此寺を此地に建立す
堂宇鐘樓土藏皆慶長五年の築造に係る寶物には

一 雲板

〔文錄年間本莊繁長朝鮮の役に携ひ歸りしもの〕

一 甲冑及十文字鎗

(繁長の用ゐたるもの)

寶積寺 船場町にあり曹洞宗にして米澤林泉寺の末派宗祖道元二十

五世の孫林廓開基創立す火災に罹る數次由緒詳かならず境内に伊

達晴宗公の墓あり

大圓寺 大字小山荒井字御山にあり淨土宗にして磐城國專稱寺の末

派寛文五乙巳年僧莊連社良嚴之を開創す明治三十年福島五月町よ

り移す

本尊は彌陀尊にして脇佛は觀音大士勢至大士なり寶物として紺地

金泥心經一卷近衛家燕公の書なりと云ふを藏せり

廣布寺 大字腰濱字松木田東にあり山號大行山本山は静岡縣富士郡

大石寺五十五世日布上人の開基にして日蓮宗なりき

福島師範學校

舟場町にあり南は阿武隈川に面し男子部(年々二百四十名以上)女

子部(年々百五十名を下らず)に分ち眺望佳絶の勝地たり

福島縣立中學校

會根田（そねた）にあり北（きた）に信夫山（のぶやま）を仰（あ）ぎ西方（せいほう）遠（とほ）く吾妻小富士（あづまこふじ）を望（のぞ）み周園田（しゅういんでん）園誠（えんまこと）に其位置（そのいち）を得（ね）たりと云ふへし實（じつ）に明治三十一年の創立にして幾多（いくた）知名（ちやうめい）の士（し）を出（い）せりと云ふ

福島縣立高等女學校

濱井場（はまゐは）にあり實（じつ）に信夫山公園（のぶやまこうえん）の下（した）にして是又（こゝろまたあづまこふじ）吾妻小富士（あづまこふじ）を望（のぞ）み寄（き）宿舍（しゆくしゃ）其他（そな）備（そな）はらさるなく眺望佳絕（ちやうぼうがぜつ）明治三十六年の創立年々卒業生（そつぎやうせい）を出（い）す他縣（たけん）に比（ひ）なしと云ふ

福島縣立蠶業學校

信夫郡渡利村（のぶのわたりに）にあり福島市（ふくしま）を南（みなみ）に逢隈川（あふくまがは）を隔（へた）つるのみ創立明治貳十九年（そふじゅうご）本科別科（ほんかべつか）に別（わか）ち完備（くわんぱい）至（いた）らさるなく遠（とほ）く鹿兒島（かごしま）、大分（おほいた）、愛媛（いのめ）

其他各地（そのたがくち）より來（きた）り學（まな）ぶもの尠（すく）なからす本校（を）を卒（を）へ各縣（げん）に教師（けうし）として名（な）あるもの數（かず）ふに違（いさま）あらず又（また）以（もつ）て名譽（めいよ）とすへし

福島縣立工業試驗場

是又（こゝろまたわたりに）渡利村（わたりに）にありて蠶業學校（さんげんがくかう）と並立（へいりつ）す創立明治三十五年（せいししごくご）製絲織器（せいししよくき）の試驗技術者（しけんぎじゆつしや）及（およ）び羽二重工女（はふたいこうぢよ）の養成（やうせい）に従事（せいせき）成績（せいせき）良好（りやう）又（また）機業（きげう）、製絲（せいし）業等（ぎやう）の發達（はつたつ）を謀（はか）りつゝあり工業界（こうぎやうがい）に及（およ）ぼす益多（えきた）大（だい）なりとす

福島市立商業學校

字西谷地（あざにしやち）にあり中學三年級（ちゅうがくさんねんきやう）の程度（ていど）よ及び學科（がくか）を授（さつ）け年々（い）出す處（ところ）の卒業生（そつぎやうせい）百名（ひやうめい）に垂（なんじく）とし其成績（せいせき）顯著（しやうじやく）たりとす

訓盲學校

舟場町ふなばたにあり文部省もんぶしょうの獎勵しょうれいを受くる數回すうくわい以て其成蹟せいせきの可良かりよし知るへ

各小學校かくせうがく

第一より第四に至り杉妻町すぎのめ、曾根田そねた、小山荒井等おやまあらゐとうに散在さんざいせり

幼稚園えうぢえん、保嬰學校ほえいがく、育兒院等いくじえんとう何れも皆其實みなじつを舉げ成績顯著せいせきけんちやうなり

私塾しじゆく、學半塾がくはんじゆく、大成塾たいせいじゆくの二塾あり學半塾最も古く大成塾之に亞つく何

れも中學程度ちゆうがくぢゆうの學科がくかを授け塾生亦多く成績顯著せいせきけんちやうなりと云ふ

教會けうくわい 福島ステバノ教會けうくわい、福島日本基督教會けうくわい、福島天主教會けうくわい、日

本メソヂスト教會けうくわい、福島基督教會けうくわい、福島組會教會けうくわい、救世軍福島小

隊等にして福島ステバノ教會最も古く明治三十二年十月一日の設

立りつに係り救世軍福島小隊あたら新らしく明治四十四年七月廿六日の設立

信者の多おほきは福島日本基督教會及ひ福島基督教會にして少すくきは福

島組合教會並に救世軍福島小隊とし蓋し何れも日に隆盛りうせいの域いみに進

みつゝあり

日本銀行にほんぎんか福島支店ふくしましてん

明治三十二年七月大町おほまちに創立せうりつ夫れ福島市ふくしましは繭絲かいしの集散地しうさんちにして金

融ゆうの繁興はんちゆうなるを以て本行支店の設もうけありしならむ大正二年春季しんきに

至いたり行舎成こしやなる其建築そのけんちくの宏壯こうそう福島縣農工銀行のうこうぎんこうに並ならひ賞しょうせられ市の二

大建築だいけんちくとす

株式會社福島縣農工銀行のうこうぎんこう

明治三十一年六月創立置賜町に在り大正二年七月行舎新築成る其
宏壯日本銀行支店と共に賞せられ二大建物の一とす行務隆盛配當
の多き東北に冠たり

株式会社福島商業銀行

明治廿九年八月創立大町に在り業務進歩日々隆盛に向つゝあり

株式会社福島銀行

明治十三年六月創立西町に在り行員奮勵最も隆んよ活動するを以

て好評あり

株式会社第七銀行

本行は明治十一年九月の創立にして大町に在り經營其宜しきを得

發展夥しく福島市中銀行界一位に數へられつゝあり

株式会社岩代銀行

本行は創立最も新らしく大正元年なるに拘はらす其發達人をして
驚かしむべきものあり元上町に設けしも大正二年大町に新築移轉
一層の發展を謀りつゝめり預金者に對し笑ふる利潤の如きは各行
の上にあると

合名會社安田銀行福島支店

明治十六年三月の創設にして本町に在り業務日に進み日本銀行支
店と並び賞せらる

福島信託株式會社、東福信託株式會社、福島倉庫合資會社、福島

電燈株式會社、東北酒類株式會社、福島誠壹株式會社、通運會社

福島瓦斯株式會社、共同生絲荷造所、福島蠶絲米穀取引所、改良

玉糸製絲株式會社、協立荷造所、福島羽重會社等何れも皆隆盛也

信夫橋 市の南端にあり延長九拾九間安達郡二本松町及び伊達郡

川俣町に到る必す此橋に依らざるへからず四時風景に富めり

松齡橋 信夫郡渡利村を通する樞要の橋梁にして蠶業學校、農事

試験場に至る皆此橋に依らざるへからず紅葉山の東南下に位し風

景又佳絶とす

停車場 市の西端にあり其輻輳名狀すへからず是れ蠶業地の故を

以てか商賈の出入頻繁等に起因と又東北線の岐點にも因るへしと

雖も以て本市の繁榮發展を知るに足るへし

停車場の位置並に其裝致風景等に至りては奥羽第一と稱するも過

言にあらざるへし

信 夫 郡

○杉妻村

伏拜、鳥谷野、杉妻の三大字より成り伏拜は古へ福島市信夫山に鎮座す黒沼神社を伏し拜みたるに基ける名なりとかや故に坂を伏拜み坂と稱する所以ならむ又「拜石」は其坂上にある巨石にして先帝御駐輦の處弘法大師伏拜の古跡とぞ

○黒岩虚空藏尊

阿武隈川に臨み斷崖の上にあり弘仁二辛卯の年一比丘の建立に係ると傳ふ其風致に富む筆紙に盡すべからず

○満願寺

○稚兒塚

黒岩虚空藏尊の堂宇と相對し寛永十一年僧詳岩の開基に係り臨濟宗にして寺寶什器書畫等珍とすべしもの多し

兒は塚野日光信(佐藤元治の臣)の子白菊丸として鎌倉稚兒淵に身を投したる美童にして白菊丸は無住泰慶寺と云へる寺に留守す旅僧來り一宿を請ふ白菊丸之を歡待す別るゝに臨み旅僧曰く我は鎌倉建長寺夢想國師の弟子自休藏司なり鎌倉に來らば尋ねられよと白菊丸自休を師とし道に入らむと志し建長寺に至り尋ぬるに尋ぬる方は此處にあらすと告げられしを此世よあらすと聽き違ひ辭世二首を遺し淵に身を投じたりと

自休詩を賦し且つ白菊丸が遺骨を送り此處に葬り(兒塚)とは稱ふ

△白菊丸辭世

白菊と信夫の里の人間は、思入江の島とこたへよ。
憂事を思入江の島かけにすつる我身はなみの下草。

△自休藏司の弔詩

懸崖險處捨生涯 十有餘霜在刹那 花質紅顏碎岩石 蛾眉翠黛埋

塵沙 衣襟徒濕千行淚 扇子空留二首歌 相遇無談愁思切 暮鐘爲孰促

歸家 稚兒塚は國道より西に入る五町餘老松の下に在り碑あり刻するに

(兒塚)の二字を以てす裏面に左の文字を刻せり

兒名白菊、信夫郡茲之産也、自詠二首歌、書遺扇子、投死相州

江島海、今日兒淵、夢想國帥泐弟自休藏司、有悼兒詩矣。

元祿九丙子年夏五月中旬立之

○諏訪神社 是伏拜に在り日本武尊東夷凱旋の際水熊なるもの湖中

に在り人を害する夥しと聞き之を殺し諏訪神社を祭りしとぞ又神

體は明和年中信州諏訪より勸請せる處なりと

○鹿島神社 是鳥谷野に在り延善式内信夫五社の一にして郷社たり

天明元年四月祝融の災に罹り舊記鳥有に歸し其勸請年月等詳にす

る能はず

◎金谷川村

福島市を距る南に二里農桑の傍機業等を以て業とす

◎蓬萊岩 阿武隈川に臨み景致奇矯巖下に漁區あり鮭鱒鮎を以て名あり

◎黒沼神社 延喜式内の古社にして信夫五社の一、大字金澤字宮の前にあり境内幽邃年々三月廿八日を以て倒祭とす

◎貝吹館 村端の一丘にあり何人の古趾なるを誌かにせず

◎松川村

福島市を南に距る三里餘同村字原に停車場あり停車場より本村に至る西に貳拾町舊幕時代は人馬絡繹誠に盛たりしと是れ江戸に通

ずるの國道にかゝればなり

現時は半農半商の村落に過ぎずと雖も南は安達郡二本松町東は伊達郡川俣町北は福島市にして其中間に位するを以て商事上の取引繁く有望の地とす

◎古城趾 天正年間伊達輝宗の臣清野備前守の子清野遠江守の居城趾と傳へ村の北部愛宕山の上に在り

◎鑛山 金銀鑛にして字熊田、中田、小池にあり試掘の結果有望と定まるも排水に困難の故を以て休止し居れり惜むべし

◎天明石 東南に距る凡そ三百間田圃の間に一奇石あり方數尺人呼んで天明石と云ふ形椅子に似たり安永の末暗夜に表はれ光明を發し

之を驗し一の佛像を得たりと

此事聖聞に達し元を改め(天明)とすと口碑の傳ふる處識者は是れ
隕石ならむと蓋し眞偽詳かならず

◎大森村 福島市を去る西南に凡そ壹里農桑の做機業を以て業とす

◎大森城址 は大字大森城山の頂に在り伊部晴宗の城く所なり當時

東よ相馬氏あり南に畠山氏西に葺名氏あり互に隙を窺ふ晴宗其族

伊達實元伊達成實及其臣片倉景綱等をして之を守らしむと云ふ

後蒲生氏郷此地を領し其將木村重次をして之を守らしむ重次初め

此に居り後福島城に徙り城遂に廢す麥隴柴桑園の間今尙隱然とし

て敗壘煙濠の形を觀るへし

◎平田村

福島市を距る西南壹里餘石名坂と稱する一の古戰場あり

◎石名坂 は杉妻村伏拜坂より西方五町佐藤莊司並に騎下十八士戰

死の古蹟碑あり一は古蹟を鏤し一は十八騎士の爲めに建つ

◎駒ヶ池 は一名磨墨池と稱し東西三間南北二間の小池大字平石に

在り相傳ふ昔土人此地水を以て二頭の馬に飲ひたるに二頭皆駿

良之を藤原衡秀に献す秀衡一を小黑一を大黒と名け小黑を賴朝に

贈る賴朝之を愛し磨墨と改稱す宇治川先登の功を樹てたるは之れ

なりと又額朝兵を起せしを聞き義經秀衡を辭し西上の際大黒を義

經に贈けし義經八島檀の浦等の戰に乗るもの之れなりと云ふ

○伊達家の墳墓 是陽林寺に在り伊達左京太夫植宗の墓本堂の東一町許りの山腹に伊達實元の墓は本堂の後廿間の山腹にあり伊達實元は植宗の第三子並理の伊達藤五郎の祖なりと

○鳥川村

○日吉神社 (俗に鳥渡の山王様)と稱し眼を病むもの皆祈願す驗ありと其他各國に傳へ四月十五日を以て例祭とす大字上鳥渡字山王に鎮座す大山昨命、大名遲牟命、少彦名命を祀る按察使中納言山陰天安二年創建する所なりと云ふ

○土湯村

土湯村は福島市を去る西四里九町温泉を以て名あり中之湯、下之湯、瀧之湯、新瀧之湯等なり

湯、瀧之湯、新瀧之湯等なり

鑛泉の性状は無色透明にして硫化水素の臭氣を放ち微に酸性の反應を呈すれども蒸散すれば稍や強き亞爾加里性となる

成分は各泉同質なれども含蓄の度に於て少しく差異あり即ち左に硫化水素、炭酸、格魯兒、硫酸、珪酸、鐵、石灰、苦土、那篤倫加里等にして鹽類性、硫黃性に屬するものとす

○中之湯 是字下の町に在り

主治 中風、皮膚病、病後の衰弱、萎黃病、回虫、婦人諸病に奇効あり

○下之湯 も亦字下の町に在り泉質及其主治に至りては中の湯に同

じ

○瀧之湯 は字川上にあり

主治 眼病、風毒頭瘡、胃病等に効あり

○新瀧の湯 は字杉の下にあり

主治 打撲、金創、火傷、濕瘡、楊梅瘡、疝瘻、眼病等に効あり
又俗間に定評ある効能は僂麻質私、神經病、疥癬、慢性潰瘍、膿疹、慢性丹毒、下腹充血、全身多血等なり

○浴舎 は設備欠く所なく宿料其他又甚廉且つ巒峰の間に在りて氣清く車馬の便あり

○公園は 字下町に在り浴後の逍遙に適ふへし

○思の瀧 は高三丈餘幅壹丈貳尺餘にして碑あり和歌一首を刻む

ゆきて見ば後もおもでの瀧つ浪

かゝる眺めを外處になす人

又瀧は不動瀧、小瀧、銚子瀧、絲瀧、慕瀧、燕瀧、風岩瀧等大小緩急百態の趣致を極む杖を曳く風流韻士觀賞措かさらしむ

○興徳寺 は黒岩満願寺の末派にして字上町に在り縁記によれば當時秦の川勝なるもの聖徳太子の命を奉し國分寺を造營せんとし東國に下りし時半身麻痺の病に罹りしに守る所の太子御自作の像夢に告て曰く信夫郡土湯の里に温泉あり之に浴せよと因て入浴月餘宿病全く癒へりと今尙土湯山興徳禪寺に安置せる尊像即ち是なり

と云ふ

○女沼 は浴所を去る此方約貳拾町にして東西四町十二間南北四町四十間深河七丈五尺に及び鱒の飼養地として名あり

男沼は女沼を距る西南數町にあり東西壹町五間南北三町五十間深所十丈に達し

風景女沼、男沼共に佳絶仙境と云ふへし實に心神豁然壯快を極む

○水保村

○吾妻山 の高峰一切經山は直立五千四百尺噴火口は其脊面にあり

四時白煙を吐けり

硫黄鑛は 此噴煙を凝結せしめ硫黄を製す其經營宜しく硫黄の質

効亦天下に冠たりと

○姥瀧 は山麓にあり風致幽邃別天地をなす微温湯を距る西北十町

高八丈二尺幅六尺霜降山の西崖に懸り飛沫霧をなし秋季紅葉に奇

觀あり

○微湯 熱湯

微温湯、熱湯共成分は二泉同質なり熱湯の温度は夏時より冬季に

高く春暖解雪の候は低下す

泉性無色透明にして酸性反應を呈し微かに硫化水素の臭氣を放ち

收斂性酸味あり成分左に

硫化水素、格魯見、硫酸、鐵、石灰、那篤倫、主治、眼病、

梅毒、腫物、痲病、火傷、創傷

○庭坂村 福島市を西に距る一里三十五町奥羽南線の停車場に在り至便の地とす

○清水観音

信夫、伊達三十三所の第八番本尊の縁記詳かならざるも松杉の古木、仁王尊躰其他總てに徴し以て其古きを知るに足るへし大字町庭坂を十數町の西に在り

○發電所

清水観音の西數町天戸川の溪畔に在り馬力五百と稱し福島電燈株式會社の發電所にして點燈竝に動力の供給日に増加し其盛隆なる

他に比類なしと云

○温泉 俗に高湯と唱へ庭坂本村より一里半の西吾妻山の半腹に在り地勢頗る高し

熱湯、瀧の湯、疝氣の湯、湯花澤の湯、内湯、玉子湯、等あり成分は同質にして浴場清潔現時家屋櫛比一の市街をなし物價亦廉且つ車馬の使あり

風光に至りては山水明媚盛暑の候蚊雷を知らず春は櫻に秋は紅葉冬は六出倚し欄に倚りて一望せんか福島市街を始め信達の山川皆眼中よ落ち爽快を極むへし

碧山好是湧靈泉、茲境閑游客似仙、六月不知塵海熱、白雲流水日

如年

常陸

足立月波

温湯吹煖自清妍、神嶽奇峰斷復連、愛此深山人境外、瀾谿別關洞

中仙

同

人

○泉性 は無色透明にして酸性反應を呈し強き硫化水素の臭氣を放ち酸味にして收斂性なり成分左に

硫化水素、格魯兒那篤留謨、格魯兒麻屈涅叟謨、格魯兒加爾叟謨

硫酸加爾叟謨、硫酸亞酸化鐵、珪酸、遊離硫酸

主治 疥癬、頭瘡、小兒腦病、胃弱、腫物、鉛毒疝、水銀毒、雁瘡、皮膚病、風濕、楊梅瘡、痛風、痔疾、癩病、消渴、疝

癩、瘡、瘰癧、慢性加答兒等なり

○大笹生村 是福島市を距る西北に貳里八町にして農桑を業とし副産として柿實を出す其名(饅頭柿)と稱し味の美などを以て鳴る

産額數千圓に上ると云ふ

○野田村 福島市をさる西方壹里人口五千戸數五百以上農桑を以て業とす

業とす雖も就中梨果を以て名をなす

○梨園 是大字笹木野に在り庭坂停車場の南數町の處にして明治十年中不毛の地を開拓し鳴原佐藏なるもの試に僅か五百本を栽培

し明治二十四年八月に至り松山貫通又試に五百本を植ゆ何れも

其生育宜しく年を追ふて増植現時百町歩以上に達し鳴原佐藏、保

科時松、阿部西次郎、宇谷盛一、古山金四郎、阿部紀、芳賀宇之

吉、齋藤孫三郎、高野周吉、其他栽培者續出し盛況の域に進みつゝありて産業組合法に則り其筋の認可を得芳賀宇三吉之れが會長たり年々産出する處の梨果八萬圓以上此金額凡そ金拾八万圓に達すと云ふ

○白和瀨神社 は延喜式内の古社にして信夫五社の其一なり

○烏帽子ヶ嶽 は奇勝に富み岳麓に材木狀の巨巖横はる無數

○中野村 福島市を去る西北を距る貳里二十五町なるも本村東西に

長く大瀧へ五里拾壹町字大平へ七里二十四町あり農桑を以て業と

すと雖とも傍ら薪炭並に櫻桃を産出し其産額頗る多大なりと云ふ

○東屋國神社 は村社にして延喜式内の古社信夫郡五社の一なり勸

請の月日詳かならず

○大正寺不動尊 は其由來明かならざるも、養蠶の保護佛として名

あり

○不動瀧 は源を菱沼山に發し高壹丈九尺幅九尺餘杖を曳くの韻士

多しと云ふ

○籠岩 國道に添ふて籠岩と稱する奇勝あり巖膚の怪紋世に多く見

ざる處のきのなり稀石と云ふへし

○平野村 福島市を四北に去る二里農桑を以て業とす傍ら梨果を産

出す佐藤莊司の古蹟等を以て名あり

○醫主寺 は飯坂町を南に去る約七町にして佐藤基治の墓所とす境

内に源義經手植と稱する虎尾松等の古木あり本堂の後に墓あり
佐藤家の墓にして墓碑に曰く

奥性院 山勝心大禪定門

神

當郡並白川會津代官佐藤莊司藤原基治

光明院殿王花昌蓮大禪定尼

基治室豆權頭清綱女 嘉祿元年三月卒去是れ基治卒渡尼と

なり尼公と種せられし人なりと

佐藤嗣信、忠信兄弟の墓相並て又南に在り法號に

吉祥院殿八過繼信大禪定門

神

祇

佐藤三郎兵衛繼信元暦元年甲辰三月十八日卒

清光院殿劔勝忠信大禪定門

神

祇

同四郎兵衛尉忠信文治五年己酉九月廿二日卒

白河樂翁文化年中此地を過り父子の墓を呆ふ和歌なり

亡魂よものいひかはす事あらは

同じころの道かたらなむ

○義經辨慶の遺物數多あり就中辨慶の笈及ひ同筆に成れる「下馬」

札の如き殊に珍とす

○東屋沼神社 大字入江野「福島より二里一町」に鎮座す延喜式内の

古社にして勸請の年月詳かなす

○渡利村 福島市と東南に相去る半里僅かに阿武隈川を隔つのみ松

齡橋を渡れば即ち渡利村にして農桑を以て業とす

福島縣立蠶業學校、福島縣立工業試験場福島測所等皆此地にあり

○辨天山 一名天女山又八千代山の稱あり今は同地の公園として名

あり西は吾妻小富士を望み田圃魚鱗の如く瞰下に在り又福島市の

信夫山公園と相對し風致も富めり筆紙及ふへくものあらず

○小倉寺觀音 は大字小倉寺に在り信夫伊達三十三所第一番にして

本尊は千寺觀草なり像は行基菩薩の刻なりと傳へ現時の堂宇は北

畠顯家卿の再建に係ると云ふ境内老松高く眺望佳絶なり

○稚子櫻 住昔白菊丸の植る所なりと傳ふ周圍凡そ壹丈八幡社の傍

にある枝坐老櫻即ち是なり

○岡山村 阿武隈川を隔て福島市を東に去る壹里本村も亦農桑を以

て業とす

○文字摺觀音

文字摺觀音は大字山口に在り文武の御宇行基菩薩の一刀三體に成

れる二寸二分の觀音尊像にして虎女か祈願を籠めしと云ふ觀音是

なり信夫、伊達三十三所の一に在りて第二の拜所とす

虎女は山口の豪農某の娘にして貞觀の昔河原左大臣源融卿東下

の際此家に宿る虎女容姿端麗卿心動き遂に情を展ふ

卿去るの後虎女戀情堪へず再會の機を文字摺觀音に祈り日を重ぬ

るも驗なし一日堂南に在る巨石に倚り情を陳の涕を收めて去らむ

とす願かひらみれは石面いしめんに髣髴ぼうふつとして卿けうの俤おまけを見る虎女とらこ悦よろこひ見みれば滅めつす云々うんぬんと

是これを之これれ「鏡石かみいし」と稱しょうす

（稜形石あいかたいし）一名「綸子石りんすせき」又（文字摺石もじすりいし）と云ふ往昔むかし布帛ふまくに摺すりれる紋石もんいし

即すなはち是これなり今は棚中たなちゆうに在あり

○左大臣さだじん詠歐いおうの碑ひ は觀音かんのん前まへ老杉らうさげの下したに在あり刻えする處ところの文字もじ尚なほ雅みやびなる筆意ひついであり

陸奥むちおくの忍しのふもち摺誰すりたれゆ故ゆに

亂みだれ初はじにし我われならなくに

○堀田ほった候こう文字摺もじすり碑ひ は觀音かんのん堂どうの前まへに在あり

陸奥國信夫郡毛知須利石、始稱其名不知何時、其說未詳也、只恐萬世之後、人不知其斯石、故表而碑於石傍爾云。

元錄九年夏五月中旬 福島大守紀正虎 表焉

○芭蕉翁はせきやうの句碑くひ

早苗はやなへとる手てもどやむかし信夫摺しのぶすり

○鎌田村 福島市を北に去る壹里拾壹町農桑を業とし傍桃及蔬菜類の産出多し

○八幡神社 は村社にして大字本内に在る古社、文德帝の御宇天安

元年三月近郷二十七ヶ村の鎮守たりと傳ふ

前九年の役に靈驗ありしを以て源頼義新に社殿を建立し延元二

年北畠顯家神田を納む事總て記録に存せしも慶長六年兵燹に罹り
寶物と共に灰燼に歸したりと云ふ

○古圓鏡 天保十一年社地内を拓掘したる際得たりと今は寶物とし
て社庫に藏す

○分捕の陣鐘 文祿年間朝鮮征伐の際本莊重長之を獲し太閤より改
めて下賜せられたるものと云ふ幅壹尺許なる陣鐘は藏めて諏訪神
社にあり

○瀬上町 福島市を北に去る壹里廿五町日に十數回軌道の便あり商
賈櫛比農商相半し福島市より仙臺市に通する國道に掛り最も繁榮
の所とす

○桃林 は甚た廣く地方唯一とす産額多大味又以て名あり

○圖書館 は瀬上町の設立にして明治四十二年創立藏むる所の和漢
書一千五百六十三洋書三十尙日を追ふて増加しつゝあり

○去來園 は町の東五町の田園中に在り風流を盡せる四阿並に一亭
あり是れ醬油醸造を以て名ある麥風舎桃柳宗近の別莊とす(去來
園)と名く園廣くして池あり飼ふに鯉魚を以て宗近鯉鱗考に基く
か又植るに花菖蒲三百種を以てし池に接して葡萄園又廣く風致に
と富めり先生未聞不見の人來り花を賞するものあるも拒ます又去る
も追はず縦覽隨意の標を掲く恰も人のもの、如くせり風雅の士と
謂つ可し

◎飯坂町

福島市を去る北に貳里程古來温泉を以て天下に鳴る汽車の便あり
 と雖も伊達郡長岡驛に下車夫より人車又は軌道の便に因らざるへ
 からす故に初より軌道の便に依るを可とす軌道の便に因る時は鎌
 田村瀬上町長岡村を經達するを得へし、今又自動車の便あり上乗
 とす
 飯坂町に摺上川を隔て伊達郡湯野村に相對し湯野村又温泉に鳴り
 互に繁榮の地とす
 旅舎五十に近く浴客常に滿つ空氣新鮮遠近の眺望に富み浴場清潔
 土地高燥誠に以て快適の地とす

◎鯖湖湯

警分寮署、郵便局、電話等一も遺感とする處なし、温泉は鯖湖湯
 透達湯、波古湯、瀧の湯、赤川湯、赤川端湯、金瀧湯、天王寺湯
 等にして成分は同質に似たるも鹽類量分に少くし差等ありと

主治、半身不隨、せん痛、慢性痛風、關節痛、腹水鼓脹等なりと雖

も婦人の諸病に適すと云へり

◎透達湯

主治、痛風、脚腫、水腫、神經痛、鬱憂病等なり

◎波古湯

主治 腫瘍、頭瘡、疥癬、頑癬、火傷、創傷、打撲等も特效あり

○瀧湯

主治 風濕、痛風、脚氣、水腫、神經病、憂憂病等に奇効あり

○赤川湯 赤川端湯、金瀧湯、等何れも其効顯同ふし即ち其主治に

しては左の如し

頭痛、んん痛、關節痛、▷毒、疥癬等なりと

○天王寺湯

主治 打撲、創傷、火傷、腫瘍、頭痛、痲痛、關節痛、梅毒、疥

せん等にして火傷創傷に特效ありと

因に鯖湖湯發見の年月 詳かならず古老の口碑に因れば日本武尊

東征の時御惱みあり此泉に浴し平癒せるより始り鯖湖の里に在

るを以て其名と爲すと

泉の東北小丘に琉璃尊を安置し泉佛となす左側に碑あり和歌を刻

す書は白河樂翁なりと云へるも讀人知らず

あかずしてわかれし人の住む里は

さばこのみゆる山のあなたか

裏面に

鯖湖碑陰記

土人以古鯖湖、即爲此地、附之

老公

老公書賜古歌、刻碑樹之、臣典謹識其陰詔、後世使之知之

文化十三年丙子

白河 廣瀬 典識

○泉性

硫化水素、炭酸鹽、コロール、硫酸、珪酸、石灰、苦土、ナトロ、加里

以上は明治十七年二月の試験に係り又各泉の標準を知らる爲め明治二十一年二月瀧の湯の試験を行ひしよ左の成績を得たりと云ふ
格魯兒那篤留謨、硫酸石灰、硫酸那篤留謨、炭酸石灰、炭酸麻屈
涅叟謨、炭酸那篤留謨、瑞酸、加里、硫化水素等なりと

○大鳥城跡

町の西南隈に在り風致に富めり保元二年藤原秀衝佐藤基治に命し

白河以北の諸邑を管せしめたる處なりと嗣信忠信共に基治の子にして此城に生れしと云ふ

○八幡宮

應神天皇を祭り壽永年中の勸請よして明治三十三年郷社に例せら

る

○古館

天正年中飯坂右近將監宗定の居りし處なりと將監嗣なく伊達正宗の子を養ふも早世家終に絶ゆと

○十綱橋

摺上川に架し伊達郡湯野村に到り鐵線を以て釣れる釣橋なり
陸奥の十綱の橋にくる綱は 前參議親隆

たけすも人にいひわたすかな

東郷の十綱の橋にくるひとも

藤原宗遠

おもひ知らてや世をわたるらむ

眞金もて藤の十綱によりかへて

立岩千秋

またくり渡す橋上の橋

○天王寺

天王寺は日本四天王寺の一にして町を隔つ十町の西にあり天王寺湯は本寺に近きの故を以て名とす聞く源義経は此地に生育せりと

○権現堂市は毎年七月三十一日を以て開き権現堂市と稱し縣下層

指の生糸市とす

○大日本ラヂウム株式会社は飯坂町鑛泉中よりラヂウムを發見するご同時に設立、エマナチオンサイダーなるもの盛に製出し好評あり

あり

○娯樂場 八幡社に隣りてあり日露戰役の際傷病兵の爲め設けしもの今は浴客消閑の娯樂場として球突場其他の設備能く整ひたり

伊達郡

湯野村

此地東北は田園南は摺上川を隔て信夫郡飯坂町と相對し風景殊に
高雅福島市を距る北に貳里餘是又飯坂町と同じく軌道自動車等の
便ありて飯坂町と共に温泉に依り名あり

温泉四箇所即ち橋本湯、切湯、狐湯、穴原湯、是なり浴客四時絶
たす

旅舎亦飯坂町に異ならず空氣新鮮浴場清潔、土地高燥誠に客を安
せしむるに足るへし

○泉性 橋本湯、切湯、穴原湯の二湯は無色透明にして味殆どなく

伊達郡

◎湯野村

此地東北は田園南は摺上川を隔て信夫郡飯坂町と相對し風景殊に高雅福島市を距る北に貳里餘是又飯坂町と同しく軌道自動車等の便ありて飯坂町と共に温泉に依り名あり

泉温四箇所即ち橋本湯、切湯、狐湯、穴原湯、是なり浴客四時絶たす

旅舎亦飯坂町に異ならず空氣新鮮浴場清潔、土地高燥誠に客を安せしむるに足るへし

○泉性 橋本湯、切湯、穴原湯の二湯は無色透明にして味殆どなく

帝國公債購買案内

一賣出方法 三年、五年、七年、十年掛の四種あり

一資金貸付 加入者には資金貸付の便法あり

一抽籤 加入者は毎月抽籤の樂みあり

一利益配當 満期の際は利益金の配當があります

福島市上町二十八番地



帝國公債信託株式會社

福島出張所

電話六六二番

伊達郡長岡

東北カーバイト株式会社

福島市中町

酒井商店

〔中町郵便局北隣〕

メリヤス
裁縫販賣

福島市停車場前

福島館

旅館



電話三〇六番

高橋旅館

御辨當

諸物品

差入所

村上リウ

福島監獄前

諸事懇切丁寧ニ御取扱ヒ仕候

銘茶茶器眞綿
ハンカチーフ編糸
縫糸綜統用糸

福島大町

△油井茶舗

電話一〇一

旅藤金本店

福島市中町

電話二〇四番

館藤金支店

福島市榮町

電話二〇三番

まこと新聞の記事も意見も穩健にして而かも綿密に、一世の師たるに遺憾なければ、如何なる事件と雖も信賴して讀むべき理想的特色ある新聞紙也

本社

東京々橋區三十間堀一

朝刊 やまもと新聞

支局

福島市新町六十二番地

やまもと新聞の福島版は縣下の出來事を細大漏らさず報道するを以て、地方の讀者は中央の事情と併せ知る事を得て、一日も此の新聞を離るべからず

福島市本町



吉松商店

電話四百三十八番

雨傘 下駄卸商 麻裏

足袋 麻類 小賣部 雜貨

同 本町四ツ辻

同 分店

露光量違いの為重複撮影

室内用
木炭暖爐
石炭コークス暖爐
特許富貴竈
千代田火のし
和洋建築金具

福島市中町



阿波屋金物店

長電話二六番

諸新聞雑誌
特約販賣所
諸新聞廣告取次
和漢洋書籍
稗史小説一切



福島市本町

電話長二二三番

書林博向堂

露光量違いの為重複撮影

諸新聞雑誌

特約販賣所

諸新聞廣告取次

和漢洋書籍

稗史小説一切



福島市本町

電話長二二三番

書林博

向

堂



東洋貯金株式會社

福島縣福島市

取締役社長

長谷川市吉

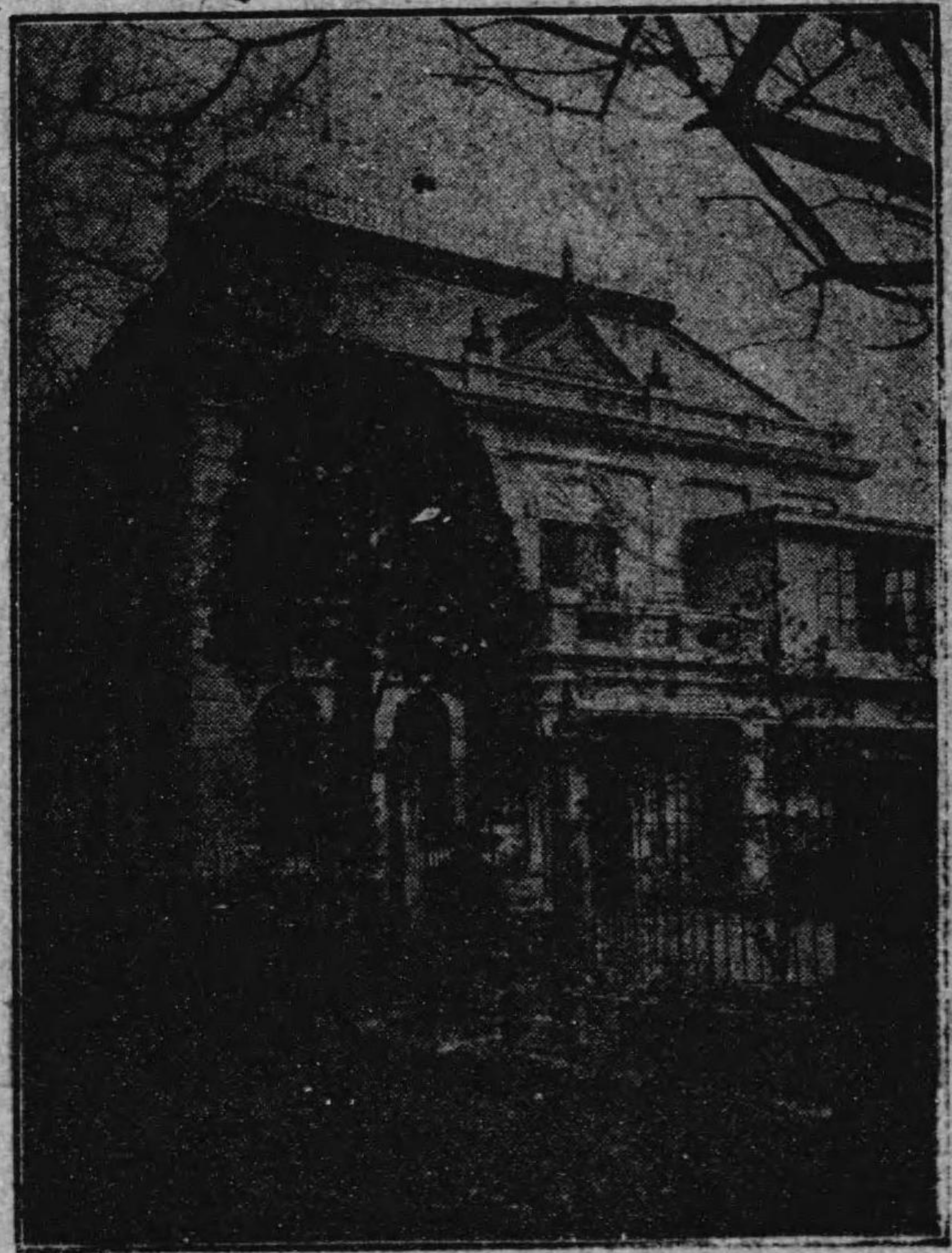
電話長(五三四番)
略(ト)

美術看板請負
ペンキ塗
自動車メンテナンス

日 本 堂

福島市榮町九番地

高尙 優美 迅速 叮寧

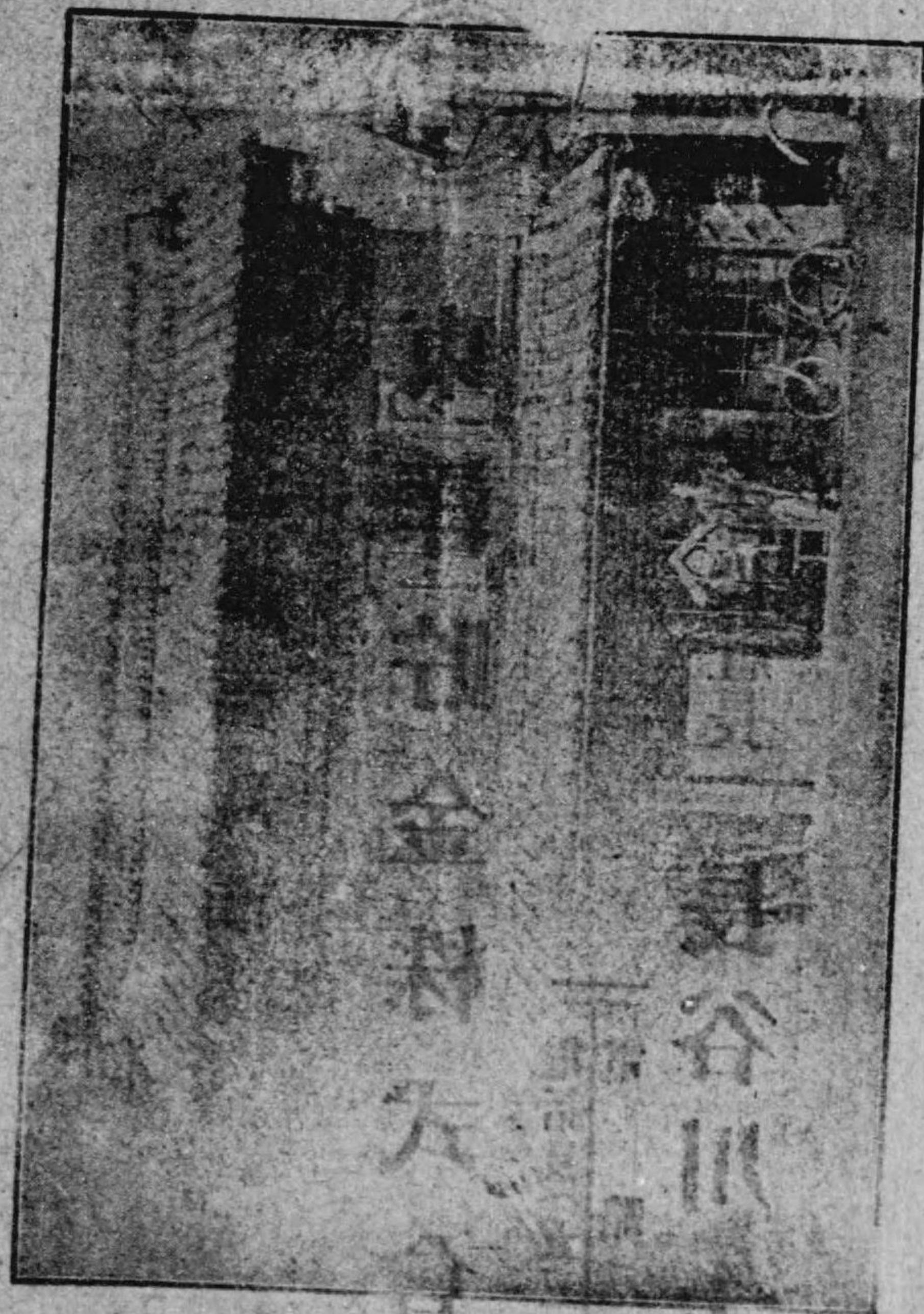


福局市呂町五丁目

田村寫真館

電話一七三番

紙洋襖類紙用和
賣小卸紙用刺名



店紙洋屋根白

町仲市島福
電話二六八番

於

第五回勸業博覽會

二等賞賜銀牌

福島名產梨菓

松

山

梨

園

福島縣信夫郡笹木野原

大日本菓物會員

松山貫通

歐米流行最新式

ブルドック調製

山田製靴店

福島市本町

極めて微の臭氣を帯ひ反應中性なれども蒸散して濃厚と爲せは弱
亞兒加里性を呈す

狐湯は三湯と適性を有するの外硫化水素の臭著明なりとす成分は
皆同質なりと

硫化水素は各泉痕跡を保ち狐湯は著明なり成分左に

炭酸鹽、コロール、硫酸、珪酸、石灰、苦土、那篤倫、加里

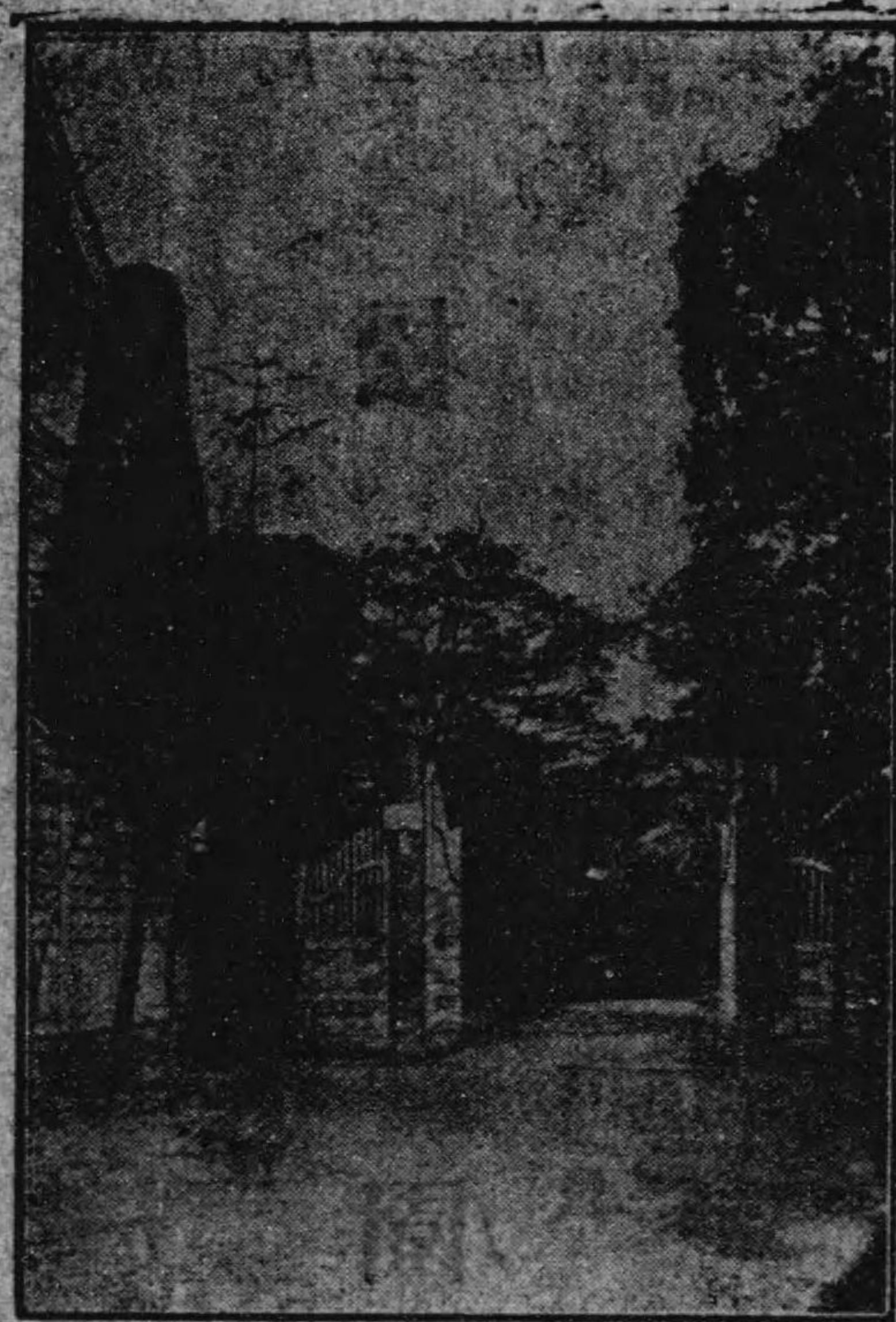
○橋本湯 は元和四年、切湯は寛永元年、狐湯は文化二年穴原湯は
寛政元年の發見に係ると傳へらる蓋し確證なし

○主治 「橋本湯、切湯、狐湯の三湯

疝痛 痛風 疥癬 腺病 皮膚病 消化不良

大原病院

福島市大町
電話二〇六番



因に橋本湯は一名疝氣の湯と稱し其名高く疝痛の治を主るものなりと云ふ又切湯は火傷、創傷に奇効ありと

○穴原湯

○主治梅毒、諸般皮膚病、疥癬、火傷、創傷等なり

○湯野堰開鑿の碑

上杉氏の臣古河善兵衛私財と身命を賭し開鑿せしものにして延長七里に至り工費凡そ十六萬兩を要せりと稱せらる士民碑を建て之を頌徳す實に寛永十年六月二十三日なり

又明治二十年中其遺澤鴻大なるを徳とし同村字高畑に祠を建て西根神社と稱し永く其徳を孫子に傳へしむ亦偉なりと謂ふべし

○愛宕山公園

湯野温泉の北小丘是れなり此地元北畠顯家卿の築城せし古蹟にして山上に祠あり眺望佳絶、老松櫻樹、奇巖の間に點在せる處に娛樂場あり

明治三十七八年の戦役に際し此地を傷病兵士の轉療所と充てられ地方有志者兵士慰籍の爲めに建設す今は一般浴客の娛樂場に供せらる

○桑折町

福島市を北に距る三里餘汽車の便あり伊達郡役所、警察署あり同郡桑折町、保原町、藤田村等蠶業地の衝に當り商業繁榮の地とす

○御陰の松

無能寺に在り老松庭を蔽ふ明治十四年 車駕東北御巡幸の際 駕を此處に駐められ其繁れる陰を賞して御陰の松の稱を賜る無能寺は地方有名の古刹なり

宮内大輔 杉 孫七郎

大君の御陰のまつの深みどり

夏もすくしきいつに見わつゝ

○安田銀行出張所 は明治三十六年四月創立、福島商業銀行出張所は明治三十七年七月の創立に掛り兩所ともに繁榮なり以て其市街の段盛知るべきのみ

○半田村 は桑折町を距る西北へ壹里農桑を以て業とすと雖も古來鑛山よ因て名あり

○半田銀山 一に半田銀山と稱すと雖も本鑛山は金銀鑛にして半田小坂の兩村に跨れる半田山の東麓に在り鑛區に到る桑折より壹里本鑛發見の年代 甚た遠く一千年前以にありと其記録詳かならず慶長寛文の頃に至り徳川幕府の直轄に歸し奉行を置き之を管理し通貨の鑄造し當時佐渡、相川金山、但馬、生野銀山と俱に日本三鑛山の一に數へられたりと云ふ

明治の初年五代友厚の手に歸し其子龍作之れを繼續し盛況を呈せしも三十四年九月八日山崩の難に遭ひ事業縮少せしと云ふ

◎長岡村 は福島市を北に距る僅かに二里六町汽車及び軌道の便あり

福島市より倚し湯野、飯坂の温泉場に到る何れの便に依るも此地を經るへからず農桑を以て業となすと雖蠶絲の出荷多く繁榮の地とす

◎天王市 は天王祭日七月十日を以て例年之を舉行し俗に天王市と稱し生絲の取引高に於て縣下第一と稱せらる

◎合名會社太宰銀行出張所 は明治四十三年五月の創立にして土地の繁榮と共に日に隆盛に越くと云ふ

◎東北カーバイト株式會社 は大正元年八月の創立にして原料を同郡石戸村石田に仰き日々の製産高五十磅八二百罐とす職工百名以

上を役し有望の會社とす

◎藤田村 福島市を北に去る四里九町半農半商の地とす大字石母田に義經の腰掛松あり

腰掛松碑文

陸奥伊達郡あつかし山のふもとに幾千とせにやなりぬらむ一本の松あり四方枝たれて高さ一丈あまり三尺にもみたす東より西に十九丈南より北に十八丈ひろこり春ことにみどりの色をそへ枝葉茂りあひて世を經ぬる老木とも見わす治承の頃よや源義經こかねをひささし吉治といふものにいさなはれ奥の秀衡か館に趣き待り給ふける道にてこの松か根に腰を休め心におもへる事をなむ松に

ちきりしよりいつしか邑人よし經の屢懸松と名つけ來り年は六百
あまりふたそちになりぬ往來の旅人こゝに立よりちとせふりせぬ
松をめてまた義經のむかしをおもへるもの絶る事なし
或人の需によりてかくつゝり待りぬ
みなもとのかつしけ

むかしより木ふかきまつはものゝふの

名もくちせしと幾世經ぬらん

寛政十二年庚申冬十月建之

隨古堂素爾需に應して筆をとりぬ

因に 源一成は徳川幕府の旗下にして當時桑折町陣屋に代官た

り隨古堂は下總古河の儒者なりしとかや

又母衣懸松、辨慶硯石と唱ふるものあり皆當時の遺蹟と稱す

◎大木戸村 福島市を北に距る五里十七町農桑を業とす大宇貝田よ

古戰場あり

○阿津賀志山 一名厚樫山と稱し貝田の南端藤田村石母田の塚に屹

立し其直立一千有餘尺山形に因り土人常に之をたんから山と稱呼

す木戸は即ち關塞にして古へ所謂下紵の關是なり相傳ふ昔し弟賊

坂上將軍を此に防くと

文治の役藤原泰衡も亦據て以て源賴朝を禦く東鑑、文治五年

源二位東征藤原泰衡險に厚樫山と國見澤との間に據り長塹を鑿ち

以て逢隈川の水を引く云々厚樫山國見山貝田即ち國見驛なり山下
長塹宛然とし尙存す

新續古今集

左大將公明

立かへり又やへたてんこよひさへ

こゝろもとけぬ下紐の關

新續拾遺

大中臣能宣

現ども夢ども見ぬ程はかり

かよはゆるせ下ひものせき

◎陸合村 福島市を北に去る三里拾八町農桑を以て業とす桑折町の
西にして全く接近し居り桑折町より湯野村及び信夫郡飯坂町温泉

場はに到いたる必かならす路みちを此このち地とに取とらさるへからす

○伊達朝宗墓 陸合村萬正寺に在り朝宗は伊達氏の祖にして文治五
年常陸介を以て源頼朝の東征に従ひ後移りて奥州伊達郡に居り建
長三年十月〔或は云ふ正治元年十月〕卒して此處に葬ると云ふ

○葛の松原 大字松原に在り古へ我邦三松原の一と稱す今田疇と爲
り一株の古松其の遺蹟を標するのみ相傳ふ保元中學英僧都流落し
て此に來り林中の松樹を削り「昔は應理園宗の學徒として公家の
梵筵につらなり今は諸國流浪の乞食としておはりをくつの松原に
とる

世の中の人にはくつの松原と

よはるゝ名こそうれしかりけり

于時保元二年二月十七日權少僧都學英生年四十一申の刻におはりぬ」と書し樹下に死せりと撰集抄に見ゆと

○阿武松原 は福島市を東北に去る二里十八町長岡驛を東に去る壹里よして伏黒村箱崎よ在り我邦三松原の二と稱す今田間三株の老松其蹟を傳ふるのみ

全菊集

太宰大貳長實

陸奥の思ひしのふに在りながら

こゝろにかゝるあふの松原

○梁川町

○福島市を東北に去る四里三十三町軌道の便あり桑折町の東方二里にして廣瀬川町の中央を貫通し人口五千五百餘四至の村々皆農桑の業に在るを以て町の繁榮日に加はりぬ

伊達郡釧糸同業組合立蠶業講習所は此地に在り又縣立原蠶種製造場は字山城館目下建築中にして聞く處に依れば其費用數萬圓を要すへしと計營の大なるを知るへし

○株式会社百壹銀行 は明治十一年九月の設立にして行業著しく發展町と共に隆盛なりと

○保原町

福島市を東北に去る三里拾町梁川町を南に隔る壹里三拾三町又掛

田町を北に去る壹里餘何れも軌道の便あり繁榮の地とす

○奥羽電氣株式會社 は同町に在り發電所は伊那郡茂庭村にして拂込資金の多きは本社を以て縣第一とす需用者又多く勢望あり

○合名會社太宰銀行 は明治三十九年七月の創立にして各地に支店等の設けありて隆なりとす

○大日本輸出羽二重合資會社 は元川俣羽二重機業會社を明治四十年八月中繼承したるものにして輸出羽二重を製織する所なり資金五拾萬圓にして力織器械に電力を利用し最も盛にして福島羽二重會社と相並て機業界の重鎮なりとす

○掛田町

福島市を東に去る四里十一町人口漸く三千五百餘の一小邑と雖も蠶業隆盛掛田折返し糸の名は縣下輸出生糸の代名詞として其名高く廣く世に稱せられ安政年間既に英佛兩國に輸出し聲價を著したりき

○靈山村 は福島市を東に去る五里三十一町保原町の東南掛田町の東北に位し農蠶を以て業とし年々産出の繭絲最も多しと云ふ

○別格官幣靈山神社

大字大石に在り源親房、源顯家、源顯信、源守親の四公を祀れり

明治十二年郡民等北畠氏勤王の遺烈を追感して創建する處

明治十八年四月別格官幣社に列す社に戊辰の役征討總督掲ぐる所

の錦旗一統を藏す明治十八年中岩倉右大臣の寄附に係ると云ふ

○靈山 (北畠氏故墳)

伊達、相馬兩國の境に在り高二百六十丈怪巖奇石森然として壁立遠く之を望めば劍戟空を刺すが如し鬼削神山靈山の名真に虚しからず土人古歌所謂人不忘山是なり稱す絶巔樹色陰鬱虚あり國司館と云ふ卉草の中尙斷礎を存す南北朝の際鎮守府大將軍陸奥守北畠顯家、義良親王を奉し據て以て東北を鎮護する所なり延元二年八月顯家大兵を率ゐて西上連りに賊軍を破り明年五月泉州安部野に戦死し顯家の弟顯信其子守親相繼て國司將軍に任し出て賊を禦ぐ興國四年城遂に陥ると云ふ土民今に至る北畠氏勤王の忠烈を稱

して衰へす山麓靈山村大字大石日枝神社境内に靈山の碑あり

文化中白河侯源定信建る所左に録す

靈山碑

靈山在伊達郡大石村、天地始陶山川結形、生此奇秀、而棄捐避即不顧、何其先與、而後奪也、建武頃北畠顯家擁義兵保此虛、屢挫折復振、然後因顯焉、顯家忠誠徇國、足顯其隱伏、而不能使蒼生心歸向、南朝、何其得物而失人也。而去其時四百年、人重忠孝、風俗尙義、農人商夫、猶指山說故事、顯家生以奥羽爲根據、雖身死泉州、如魂魄必還反常在此山矣、村民樹碑、祀以酒食、山靈人神、今蟹來食、其祚斯民也必矣、然則其相得顯著

者、將以愈極久遠也。

文化十四年八月

○靈山寺 リョウゼンジ は天臺宗にして大字大石に在り縁起に云ふ貞觀元年慈覺大師の開基に係り天竺の靈鷲山に擬ふて靈山寺と稱すと古時靈山の頂に在り慶長年中今の地に徙る延元の亂足利尊氏一山の衆徒北畠氏に與せしを怒り伽藍を焼き舊記什寶悉く烏有に歸すと云ふ

○小社機織神社 (伊達郡飯坂村に在り)

福島市を東に去る五里二十町 仁徳帝の時大和國高市郡川股莊司蜂能其女小手姫を伴ひ奥州に下り伊達郡に留まり蠶桑機織を教ふ土人因て小手姫の祠を建つと祠は舊小手姫社と稱せり

同郡小手川村大字布川に古墳あり小手姫の墓なりと傳ふ(或は曰く小手姫は日本書記 崇神天皇の條元年三月大伴糠手連女小手子爲妃是與蜂子皇子錦代皇女云々是なり蘇我馬子弑逆を謀るに及び皇女避け後播遷此に殉せりと)

○川俣町 かわまた

福島市を東南に去る五里四町信夫郡松川驛より東へ三里伊達郡の南端にして人口六千七百餘機業を以て天下に名あり

○春日神社 字宮町紅葉山に鎮座嘉祥三年の昔より小手の莊二十六郷の總社たり山陰に納言此處に祠を建奈良の春日を遷せしと 廉平五年阿部頼時の乱に源頼義劍を捧げ祈しに忽にして賊平く

寛治五年清原武衡の亂に源義家弓矢を捧げ祈られしに又平く
依て小手の總社とあかめ奉りぬ其後徳川將軍五代の頃より天下
の祈願所となり年々九月九日十日兩日の夜流鏑馬の祭事を執行せ
り境内廣からすと雖も風景佳絶

○川俣絹布精錬會社 及日本絹布精錬會社

川俣町は輸出羽二重の精錬を専らとし業務盛大技術鍊達他の及ふ
へからざるものあり壹ヶ月の精練高貳萬疋以上に達すと云ふ

○羽二重市場 羽二重市は毎月二七の定期毎市の賣買高三千五六百
疋に達し京濱地方の商人往復常に絶たず以て其盛況知るへきの
み

○川俣電氣株式會社 發電所は安達郡太田村上太田字廣瀬にあり需
用者中七分は力織器に應用すと云ふ

○株式會社川俣永續社 は明治二十七年一月の創立にして盛況なり
株式會社第百七銀行支店は明治三十一年九月株式會社福島商行銀
行支店は明治三十八年四月の創立何れも隆盛なりとす

安達郡

◎二本松町

福島市を南に距る六里十七町交通至使市街繁盛郡中第一にして人口壹萬餘を有せり

城址あり昔時足利氏其族畠山高國を以て陸奥探題と爲す曾孫滿泰始めて此に城き二本松氏を稱し五世の孫義繼伊達政宗の爲めに亡さる後豊關白東征城を以て蒲生氏に授く未だ幾くならず又之を上杉氏に授く徳川幕府の世松下重綱、加藤嘉明二氏更に之を領し寛永以還丹羽光重此に封せられ世々之に居る戊辰の役城兵火に罹る町の中央に一小丘あり觀音山と稱し城址は其山嘴にあり舊城は霞

ヶ城と呼ひしも今は影を留めず

◎雙松館

霞ヶ城址にある器械製系工場なり工女二百人以上一箇年の製系高二千七八百貫以上に達し海外直輸出にして本館は明治十九年の始業に係ると雖も元二本松製系會社の繼承二本松製系會社は明治六年の創立なりき民間に於ける器械製系は本會社を以て嚆矢とす

◎株式會社二本松銀行

は明治二十六年十一月の創立にして行務隆盛なり
○株式會社第七銀行支店 は明治三十年十月の創立是又隆盛なり